

大学生のキャリア意識調査2007

調査報告書

2008年5月

京都大学高等教育研究開発推進センター
財団法人 電通育英会

目次

調査にあたって・1

調査概要・5

調査結果のまとめ・6

調査結果

Q 1 大学進学「最」重視点・・・17

Q 2 大学での学びの目的・・・18

Q 3 学習意欲・・・19

Q 4 大学教育で習得する知識と技能・態度・・・20

Q5、Q6 1週間の過ごし方・・・23

Q 7 大学生活の重点・・・27

Q 8 学生生活の充実度・・・27

Q 9 ボランティア活動への参加・・・28

Q10 インターンシップへの参加・・・30

Q11 中学・高校における就職や将来の生き方指導・・・32

Q12 将来の見通しとその実行・・・33

Q13 将来設計・・・34

Q14 将来どこまで進学するか・・・34

Q15 参加型授業への参加・・・35

Q16 キャリア形成科目への受講・・・36

Q17 キャリア形成支援のためのセミナー・講座の受講・・・37

Q18 就職相談・・・38

Q19 資格の必要度・・・39

Q20 いつから将来の仕事や人生設計を考え始めたか・・・39

Q21 就職や将来のことばかり考えてしまうか・・・39

Q22 就職や将来のことに関する両親の関与・・・40

Q23 大学や学部・学科・コースは将来に希望を与えてくれるか・・・41

Q24 就職活動の開始時期・・・42

Q25 転職の可能性・・・42

Q26 希望する雇用形態・・・43

Q27 いつまで仕事を続けるか・・・44

Q28 理想の仕事・・・45

Q29 仕事と余暇の関係・・・46

Q30 自己効力・・・47

Q31 結婚やその後の家庭生活について・・・48

調査票

調査にあたって

本調査は、大学生のキャリア意識やキャリアデザイン、大学のキャリア教育やキャリア形成支援の全国の実態・動向を把握するべく始められたものである。

よく知られるように、「キャリアcareer」は車道、競争路といった意味を語源として持つ言葉で、あえて訳すならば、「生涯にわたっての職業・経歴」という意味となる。

1990年代後半頃から徐々に、これまで「職業指導」とか「就職支援」と呼んでいたものを「キャリア教育」とか「キャリア形成支援」という用語で置き換えていった背景には、人々の理想的な神話だったとは言え、日本企業社会を特徴づける終身雇用や年功序列システムがバブル経済崩壊以降一概に機能しなくなったことがある。

また、人々の働き方や働くことへの見方・考え方がこの間かなり変化し、かつ多様になってきたこと、さらには7・5・3というフレーズに見られるように、転職、早期退職が一般化していることもある。学生はある会社へ就職してもずっとそこに居続けるとは限らないし、会社もずっと存続していかれるかはわからない。急速に変化する社会状況のなか、同じ会社においても同じ仕事をずっとし続けるとは限らない。

このような状況のなか、大学は学生をより就職条件のいい、あるいは学生の興味・関心に合致するところへ就職斡旋、仲介をすればいいのではなく、多かれ少なかれ学生のキャリアデザインを育てることまで含めて、職業指導や就職支援をおこなうことが求められるようになってきている。だから、キャリア教育であり、キャリア形成支援である。興味ある職種や職場の条件はもちろん重要である。しかし、それだけでなく、自分は何をやりたいのか、自分ほどのような人生を過ごしたいのか、といった人生を見通した上でキャリアデザインにもとづく就職も切実に問われるようになってきているのである。

この10年キャリア教育、キャリア形成支援は多くの大学でかなり取り組まれるようになった。就職部や就職センターといった組織は、キャリアセンターやキャリアサポートセンターなどの名称の下改組され、その取り組みもキャリアと呼ぶによりふさわしいものへとなってきている。以前では考えられなかった、正課教育の一環としてのキャリア教育の導入も大きな眼目である。まさに、正課・正課外の大学教育全体を通したグランドデザインが、学生のキャリア教育、キャリア形成支援という名の下に始まっている。

他方で、キャリア教育、キャリア形成支援という名の下ではないが、類似した取り組みが正課教育のなかで始まっている。それは、「汎用的技能(ジェネリックスキルgeneric skills)」に代表される、正課教育における技能育成である。エンプロイアビリティやコンピテンシーをはじめとする産業界との接続や、新しい社会の到来を見据えてのものでもある。一般的には、まだまだ課題段階であるが、この1、2年焦眉の課題として盛んに議論されている。2007年後半に中央教育審議会大学分科会から出された「学士力」という用語もここに接続する。

教育は子どもの知識・技能・態度を育てる営みである。日本の大学はこれまで知識重視で教育をおこなってきたので、個人教員が熱心に取り組むといった例外はいつでもどこでも見られるものの、組織的に

は後者の技能・態度は育成課題としてこなかった経緯がある。だから、最近になって汎用的技能だ、学士力だ、と叫んでいる。

1950年代後半からの日本の経済成長との関連を見ればわかるように、そこで高等教育(大学教育)が果たした役割は大きい。しかし、社会がより高度化、情報化、グローバル化し、一定程度近代化の成熟を越えたところに位置する現代社会で、人々に求められる技能・態度もまた高度化、複雑化している。もはや、それらは教育という組織的なカリキュラムや支援プログラムを経て育成されなければならないところまで来ている。中等教育の例であるが、OECDのPISA調査に見られるような、あるいは1960年代にすでにユニバーサル化を迎えた米国の高等教育に見られるような、他国の成功例がモデルとなってこうした傾向を助長している。

大学で扱われる知識は、一般的に言って、かなり抽象的で体系的である。これを学問知と呼ぶならば、われわれが日常で用いる知識は日常知である。日常知に対する学問知の大きな特徴を2つだけ挙げると、以下のようになる。

1. 自分の知らない知識が随所に現れ、それを学習しないことには他者と議論さえできないこと
2. 日常生活では直接問題になりにくい抽象的なテーマや課題が扱われることが多く、体系的に時間・空間を越えて思考をしなければならないこと

より上の物質的な充足をはかればよかった戦後の日本社会と違い、現代社会はより多価値的である。ひいては、より心理的でより個性的な特徴を生み出してもいる。人々の幸せや理想はもはや物質的な充足では説明ができなくなっている。社会が抱える課題は、国家、社会システム、政治、経済、人々の暮らし、民族といった歴史的、文化的な事情を背景とするものが多い。未来の可能性はこれに科学知識・技術の発展を加えて、良い意味でも悪い意味でも豊かにならざるを得ない。現代社会に生きる私たちは、ひとたびある問題に直面すると、日常知では解決できないさまざまな知識をもとに、問題を論理的に、分析的に思考し、他者と批判的かつ生産的に議論をしなければならない。学問知が問われる瞬間である。

キャリア教育だけを考える関係者は、職業専門学部(医学部や薬学部、工学部など)を別として、正課教育で扱われる学問知がどうして学生の将来につながるのか理解できないとよく言う。

しかし、私たちの現代社会は、もはや少しのアクションをおこせば物事が理解できるようにはなっていない。ひとたびある問題に取り組めば、そこに絡んで必要とされる知識は具象的、抽象的レベルにおいて、かつ多次的に膨大である。そうした状況に直面して、人はどのような行動を取ればよいのか。そこで問われるのが、知識・技能・態度を一体とした総合的な能力である。

乱暴であるが、上述の要点を強調するうえで次のようにまとめてみる。すなわち、今日社会や会社の日常知を中心として推進されているのが正課・正課外でなされているキャリア教育、キャリア形成支援である。他方で、学問知を通しての知識・技能・態度の包括的な能力を育成するのが正課教育である。どちらも重要な課題であって、バランスが重要である。一方だけが極端に強調されてはいけない。全体的なグランドデザインのもと、キャリア教育、キャリア形成支援は複眼的におこなわれなければならない。

学生の側から彼らのキャリア形成を理解しようとするとき、そこではどういう点がポイントとなるだろうか。

私は彼らの2種類のライフ(lives)を中心にみていくことが重要だと考えている。承知のように、ライフには、「日常生活」という意味でのライフと「人生」という意味でのライフと2種類がある。日常生活としてのライフは、学業やクラブ・サークル活動、アルバイト、ボランティア、趣味・娯楽といった正課・正課外の活動、キャンパス以外の活動全般を指す。学生の生活実態を把握するこれまでの大学生調査の多くは、この側面に焦点を当ててきている。

他方、人生としてのライフは、職業・進路選択、生き方、将来展望などの人生設計を指す。心理学者が専門の研究の一環として調査することは見られたものの、一般の大学生調査でこの側面を扱うことはあまりなかったように思われる。しかし、職業指導、就職支援からキャリア教育・キャリア形成支援へと標語が変わる以上、学生を理解する視点のなかに人生設計の含意がなければならない。

こうして、人生設計を支える人生観にも焦点を当てて学生を理解する必要がある。現代大学生は、個性化された、価値が多様な時代を生きる若者であるから、大学生のキャリア形成はこうだと一元的に見ていくことは避けねばならない。学生がどのような就労観や人生観、家族観を持ってキャリア形成をおこなっているのか、そのような彼らの人生観や価値観をふまえた学生理解が求められている。これまでこうした学生理解は十分になされてこなかったという意味においても、この点これからの課題として明記しておきたい。

さらに、時間軸を前に広げると、大学入学以前の高等学校までの経験や考え方が、大学入学以後の諸活動、ひいてはキャリア形成に影響を及ぼしていると考えられる。とくに、大学に入ってはじめて人生を考えるような学生は、あっという間に4年間を終え、十分な見通しをも持たないまま社会に出ていくと考えられる調査結果や議論が多く提出されている。学生はいつ頃から人生設計をし始めて、それに向けたどのような経験、活動をしてきたのか、そうした点の把握もまた、大学生のキャリア形成を理解するうえで重要である。

今回、京都大学高等教育研究開発推進センターと電通育英会が共同で始めた「大学生のキャリア意識調査」は、以上述べた時代、社会状況、学生観、その他をもって以下の次元を設定し、それらを項目化したものである。

1. **人生としてのライフ**: 将来の見通し、大学院への進学、時間的展望、資格の必要性、就職活動の開始期、就労観、人生観、家族観
2. **大学入学以前の経験・考え方**: 大学への進学理由、高校までの進路・キャリア指導、ボランティア・インターンシップへの参加経験、人生設計の開始期
3. **キャリア教育・キャリア形成支援の実態**: キャリアセンター、教員、上級生のキャリア支援状況、キャリア教育科目の受講経験、キャリア形成支援プログラムへの参加経験
4. **日常生活としてのライフ**: 1週間の過ごし方、その成長や発展、人生設計への貢献、学生生活の満足、大学生生活の重点、充実感、参加型授業への参加経験、両親の関与

5. 汎用的技能の獲得: 授業・授業外における汎用的技能の獲得

6. 心理学の尺度変数: 進路選択に対する自己効力、学習意欲

本キャリア意識調査は、わが国全体の大学生の一般的動向を把握するべく始められたものである。これまで同種の全国大学生調査はいくつかの機関でおこなわれてきたが、上記の大学生理解の観点から見ると、調査項目がやや単純であるという点、問題だと感じられた。

また、本調査は3年に一度のサイクルで継続的に実施する予定である。今回はその第一弾である。一回限りの調査は多く見られるが、継続的に全国データを収集し、かつそれを豊かに解釈していく作業は個人の力量を越えている。莫大な経費と人的資源が必要だからである。今回、このような難しい条件を実現可能にしたのは、京都大学高等教育研究開発推進センターと電通育英会の共催あつてのことである。着実にプロジェクトを進行させ、成果を全国の関係者に広く伝えていきたい。

なお、キャリア意識調査は、毎年8月に実施が予定されている「大学生研究フォーラム」と連動した活動である。さらに、キャリア意識調査は3年に一度のサイクルで実施されるが、そのあいだの年には、フォーラム等で検討された問題点をもとにした構造分析調査がおこなわれる予定である。

一連の調査結果と、それをもとにした多様な視点や立場からの解釈や議論を総合して、少しでも学生の実態をふまえた実りある知見や示唆を出していきたい。そして、それをキャリア教育、キャリア形成支援、ひいては大学教育改革の関係者と共有していきたいと願う。

(溝上 慎一)

* 調査票、調査結果の詳しい数字等は、下記の電通育英会ホームページでも公開しているので、あわせて参照されたい。

<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>

調査概要

項 目	内 容
1. 調査目的	大学1年生・3年生の大学生生活実態ならびにキャリア形成活動・将来設計・就職意識を把握し、当財団の奨学事業の参考とする。
2. 調査エリア	全国
3. 調査対象	4年制大学、医系・薬系6年生大学に通う1年生・3年生
4. 調査方法	インターネットリサーチ
5. 調査対象抽出法	(株)電通リサーチ MILLIO-NETモニターより無作為抽出
6. 有効回収数	大学1年生 988人(男子:512 女子:476) 大学3年生 1025人(男子:563 女子:462)
7. 実施時期	2007年11月8日～14日
8. 調査実施機関	(株)電通リサーチ
9. 企画	財団法人 電通育英会 所在地: 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
10. 調査設計・アドバイザー	京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授 溝上慎一氏
11. 解析・コメント執筆	福島大学 人間発達文化学類 准教授 中間玲子氏

調査結果のまとめ

各項目の結果と考察は以下のページを読んでいただくとして、ここではキャリア教育、キャリア形成支援の実践的な観点から本調査が明らかにした点を考察しておく。

1. 大学入学以前のキャリア教育は役立っているか？

全体としては、役立っている、十分意義があると見ていい。ほとんどの学生が多かれ少なかれ、中学校・高校の段階でキャリアに関する進路指導を受けて大学へ入学しており(図11-1、p.32)、1年生、3年生を問わず約半数の者が現在の自分にその影響を認めている(図11-2、p.32)。

また、図1は将来の仕事や人生設計の開始時期(Q20)と中高校の進路指導(就職・将来)(Q11)との関連を分析したもののだが、その結果は、はやくから人生設計を始めたと感じる者が中学・高校での進路指導の影響を認めていることを示唆するものである。

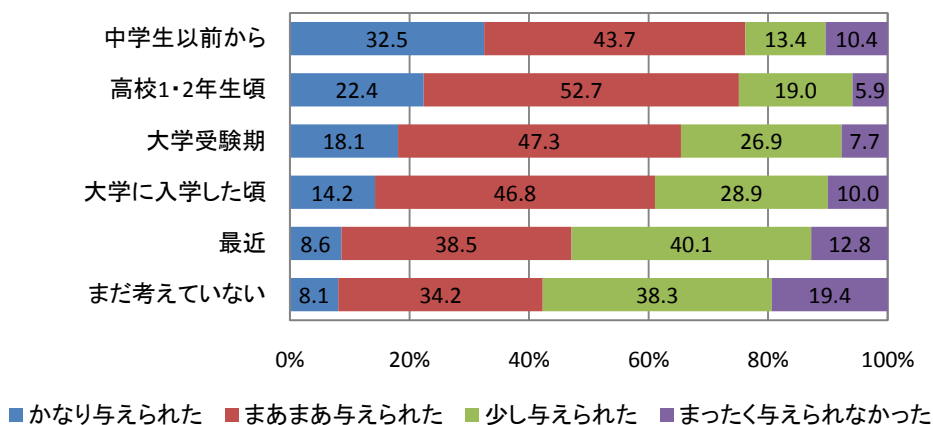


図1 将来の仕事や人生設計の開始時期(Q20)と中高校の進路指導(就職・将来)(Q11)との関連(全体N=2013)

さて問題は、はやくから人生設計を開始した者が大学生の時期、どのような過ごし方をしているかである。とくに、キャリア教育、キャリア形成支援のテーマでは、

- ・将来の見通しを持っている(人生としてのライフ)
- ・その将来の見通しに向けて自分は大学生活を頑張っている(日常生活としてのライフ)

の2種類のライフのバランスが重要な課題となる。本調査では、具体的な水準から抽象的な水準まで多様にこの2種類のライフについて質問をしているが、ここでは最大限この問題を要約して尋ねているQ12(将来の見通しとその実行)との関連を見ることとしよう。

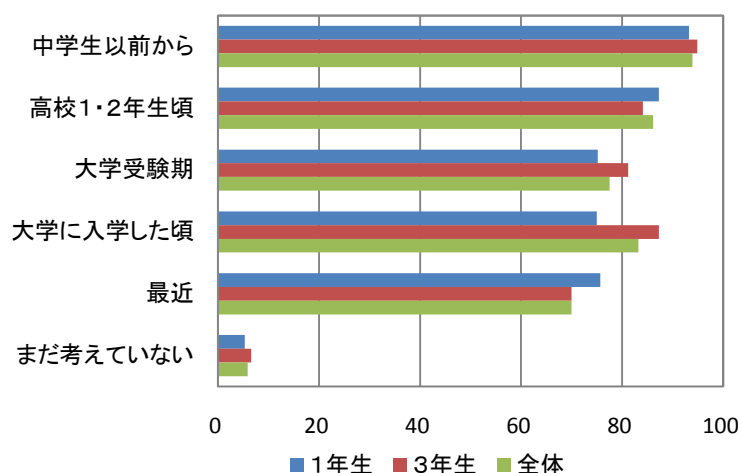


図2 将来の仕事や人生設計の開始時期 (Q20)と「将来の見通を持っている」割合 (Q12-1)との関連

図2を見ると、「中学生以前から」人生設計を開始した者がもっとも多く現在「将来の見通しを持っている」と回答している(1年生93.2%、3年生94.9%)。しかし、より「最近」に近いところで人生設計を開始した者は、1年生と3年生を問わず、「将来の見通しを持っている」と回答する者の割合が一段階落ちる(1年生では「大学受験期」で75.2%、「大学に入学した頃」で75.0%、「最近」で75.7%/3年生では「最近」で70.0%)。この結果は、人は人生設計を開始してすぐに将来の見通しをもてるようになるとは必ずしも限らず、多くの者が安定して将来の見通しを持てるようになるのにおおよそ2~3年必要とすることを示唆している。

将来の見通し(人生としてのライフ)が見えるようになると、学生はそれを日常の努力(日常生活としてのライフ)へと移していけるものなのだろうか。つまり、キャリア形成における2種類のライフ(人生としてのライフと日常生活としてのライフ)のバランスの問題である。

図12-2(p.33)を見ると、およそ3分の1の学生は「何をすべきか分かる・実行もしている」と答え、半数の学生は「何をすべきか分かる・実行はできていない」と答えている。1割強の学生は「何をすべきかはまだ分からない」と答えている。この傾向に学年差は見られない。これらの結果は、学生が将来の見通しの実現に向けて、日々の生活をマネジメントしたり努力したりすることがいかに難しいか、すなわち人生としてのライフと日常生活としてのライフをバランスよく形成することがいかに難しいかを示している。

この傾向はキャリア形成の開始期と関係があるだろうか。Q12-1(将来の見通しの有無)で「将来の見通しを持っている」と回答した者を抽出して、Q12-2の将来の見通しの実現への理解と実行(便宜上、以下回答を「理解・実行」「理解・不実行」「不理解」とする)との関連を1年生・3年生別に図3、4に示す。

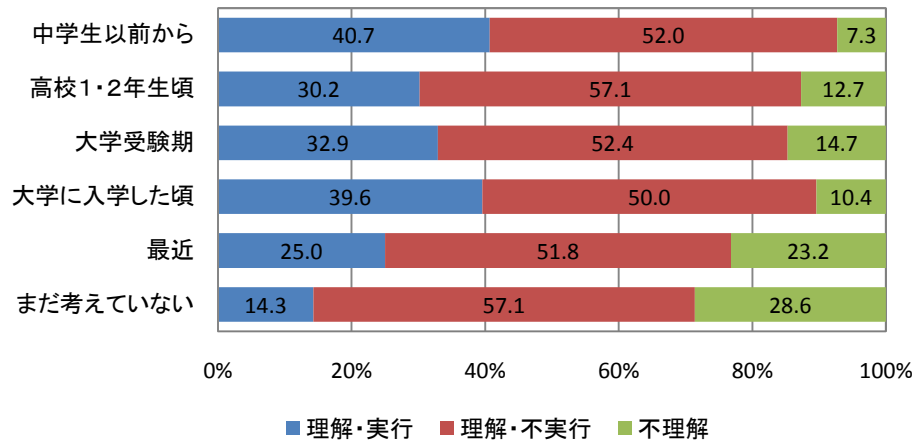


図3 将来の仕事や人生設計の開始時期(Q20)と将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(1年生N=719)

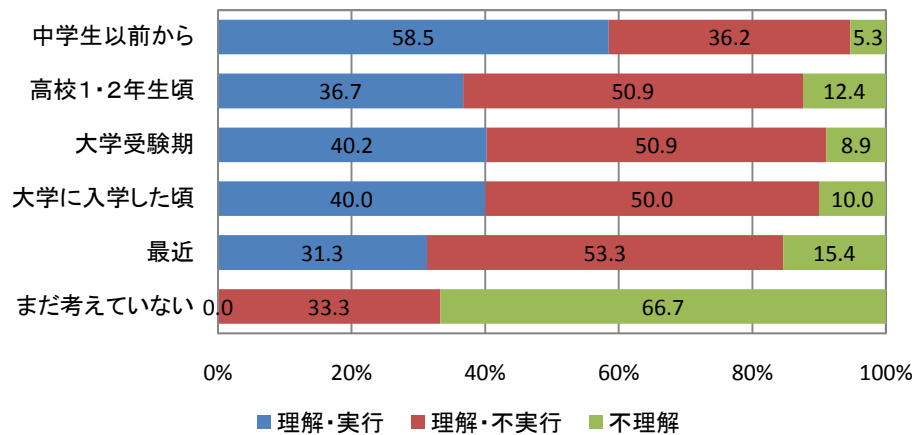


図4 将来の仕事や人生設計の開始時期(Q20)と将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(3年生N=750)

結果は大きく2点を示唆している。1つは、ここでもはやくから人生設計を開始した者が、将来の見通しに対して「理解・実行」と答えていることである。つまり、「中学生以前から」人生設計を始めた者の多くは「理解・実行」と答えており(1年生40.7%、3年生58.5%)、そこから多少の年数幅を持ちつつ、「最近」と答えた者に向かってこの割合は減少している。人生設計の開始時期のはやさが、人生・日常生活としての2種類のライフのバランスを規定していると考えられる。

もう1つは、そうは言っても多くの者にとって、人生としてのライフと日常生活としてのライフとは別次元の営みなのであるということである。つまり、3年生の「中学生以前から」の回答者を別として、全般的に「理解・不実行」とする者が人生設計の開始期のはやさに関係なく、どの群にも50%程度見られる。これは大きな数字である。

以上をまとめると、本調査の結果はまず、大学入学以前のキャリア教育が役立っていることを認めるものであった。はやくからキャリア形成に取り組む学生は、そうでない者に比べて、将来の見通しを持ちその実現に向けて日々努力をしていた。他方で、本調査の結果は、キャリア形成には人生としてのライフと日常生活としてのライフの2種類のライフの形成があり、両者をバランスよく形成することがいかに難しいかを示唆するものであった。多くの学生にとっては、はやくからキャリア形成に取り組み、認識的な次元における将来の見通しが持っていたとしても、その実現に向けての日常生活のマネジメントや努力はまた別次元の作業であった。

2. 大学入学以後のキャリア教育、キャリア形成支援は役立っているか？

キャリア教育を正課教育としてのキャリア形成科目の受講(Q16-1)、キャリア形成支援をキャリアセンターなどによるキャリア形成のためのセミナーや講座の受講(Q17-1)と定義して、以下の分析をすすめる。

まず、キャリア形成科目を「かなり受講した」「まあまあ受講した」と回答した者を「受講群」、「少し受講した」「受講したことがない」と回答した者を「非受講群」、キャリア形成のためのセミナーや講座を「かなり受講した」「まあまあ受講した」と回答した者を「受講群」、「少し受講した」「受講したことがない」と回答した者を「非受講群」としてまとめ、それぞれの受講群・非受講群が将来の見通しを「持っている」か「持っていない」か、その関連を学年別に図5～8に示した。

結果を見ると、将来の見通しを持っているという意味でのキャリア教育の効果は両学年ともに認められる。たとえば、1年生のキャリア教育受講群は82.7%の者が将来の見通しを「持っている」と回答しているのに対し、非受講群は69.2%の者しか将来の見通しを「持っている」と回答していない。同様の効果はキャリア形成支援の1年生でも見られる(受講群の80.2%は将来の見通しを「持っている」と回答している)。

しかしながら、3年生におけるキャリア形成支援の受講群と非受講群とのあいだでは、将来の見通しを「持っている」と回答する者の差が見られない(受講群73.6%、非受講群72.9%)。これはどのように解釈すればよいだろうか。

授業としてのキャリア教育への参加は、学期はじめに計画的に科目履修をしなければならないという意味で、ある程度長期スパンで自らのキャリアを形成しようとする態度や構えが学生に求められる。それに対して、キャリア形成支援の方は状況依存的、悪く言えば、せっぱ詰まった状況で参加をすることができる。こうした受講態度や状況が学年による受講率の違いとして表れているのではないだろうか。興味深いことに、図16-1(p.36)のキャリア教育の受講率を見ると学年差はほとんど見られないが、図17-1(p.37)のキャリア形成支援の受講率を見ると圧倒的に学年差が見られる。状況的にせっぱ詰まった学生群はキャリア形成支援受講群に加わり、将来の見通しを「持っている」と回答する者の割合を減じたと見る方が妥当である。

ただし、この結果がキャリア形成支援の効果を減ずるものとならないことは1年生の結果を見ればわかるとおりである。むしろ問題は、こうした就職活動期に見られるキャリア形成支援の特化した状況を理解することである。

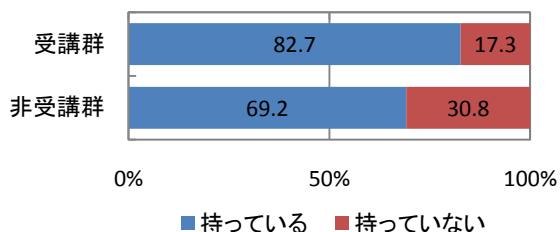


図5 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(1年生N=988)

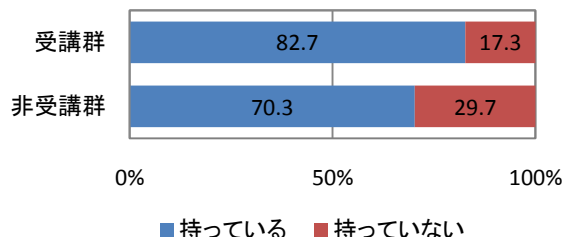


図6 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(3年生N=1025)

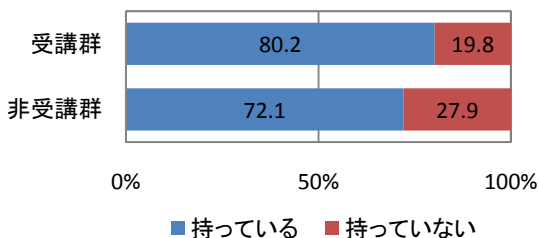


図7 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(1年生N=988)

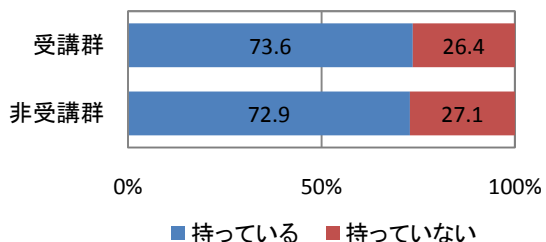


図8 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における 将来の見通しの有無(Q12-1)との関連(3年生N=1025)

3年生におけるキャリア形成支援での特徴は、Q12-2の将来の見通しの実現への理解と実行(前節と同様、以下回答を「理解・実行」「理解・不実行」「不理解」とする)との関連を見ることで、同様に確認することができる。

図9～12が示唆するのは、前述と同様に、キャリア教育、キャリア支援形成の効果である。同じ将来の見通しを持つ者のなかでも、受講群は非受講群に比べて、将来のその見通しに向けて「理解・実行」する者の割合が多く、「理解・不実行」とする者の割合は減っている。しかし、キャリア形成支援の3年生に関しては傾向が異なっており、受講群のほうが非受講群に比べて「理解・実行」の割合は少なく、「理解・不実行」の割合は多くなっている。就職活動期にいる3年生とキャリア形成支援が合わさった独特の状況が、この傾向を生み出していると考えられる。

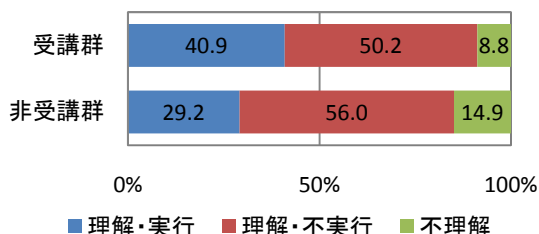


図9 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(1年生N=719)

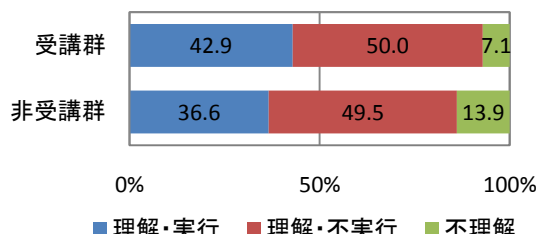


図10 キャリア教育受講群・非受講群(Q16-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(3年生N=750)

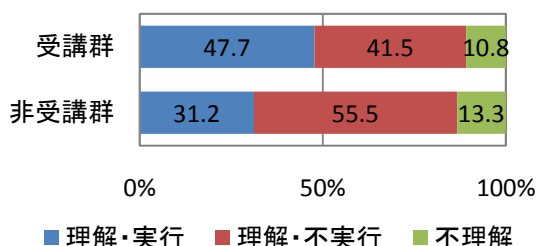


図11 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(1年生N=719)

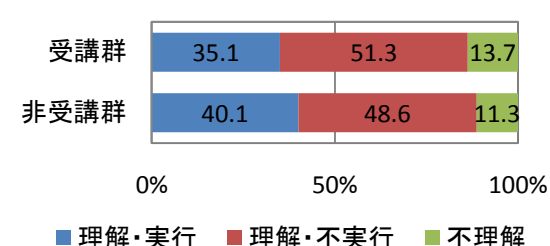


図12 キャリア形成支援受講群・非受講群(Q17-1)における将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(3年生N=750)

3. ボランティア活動、インターンシップへの参加はキャリア形成に役立っているか？

キャリア教育やキャリア形成支援では、社会を体験し、社会のなかで自身の興味・関心や適性を知ることが目的として、ボランティア活動やインターンシップへの参加を推奨したりプログラム化したりすることが多い。図9-1、9-2(p.28)、10-1、10-2(p.30)を見ると、こうしたボランティア活動やインターンシップへの参加率は決して高くないものの、参加した者の現在の自分への影響度(図9-3、9-4、10-3、10-4)は高い数字を示している。まずは、学生のキャリア形成におけるボランティア活動やインターンシップへの参加の重要性を認めることができる。

ここではもう少し考察を進めるべく、前節まで議論してきた将来の見通しの有無(Q12-1)、その実現への理解と実行(Q12-2)を用いて、(大学入学後の)ボランティア活動(Q9-2)、インターンシップ(Q10-2)への参加との関連を検討しておく。

分析にあたっては、ボランティア活動への参加に対して「かなり参加した」「まあまあ参加した」と回答した者を「参加群」、「少し参加した」「参加したことはない」と回答した者を「非参加群」とした。インターンシップへの参加に対しても、同様の処理をおこない、「参加群」「非参加群」を作成した。関連の結果を図13～16に示す。

それによると、ボランティア活動・インターンシップともに、参加群は非参加群に比べて将来の見通しを持っており、その実現に向けて理解・実行している。前節で議論してきたものと同様の効果を、ボランティア活動、インターンシップへの参加にも認めることができる。

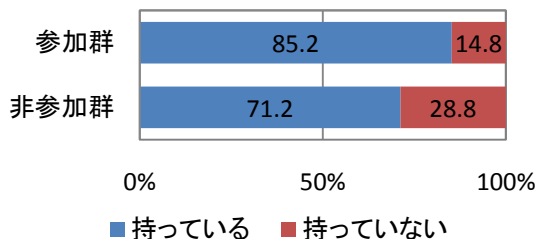


図13 ボランティア活動参加群・非参加群(入学後)(Q9-2)と将来の見通しの有無(Q12-1)との関連性(全体N=2013)

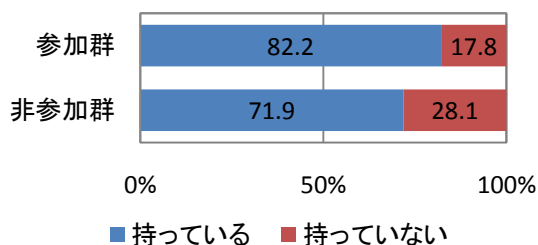


図14 インターンシップ参加群・非参加群(入学後)(Q10-2)と将来の見通しの有無(Q12-1)との関連性(全体N=2013)

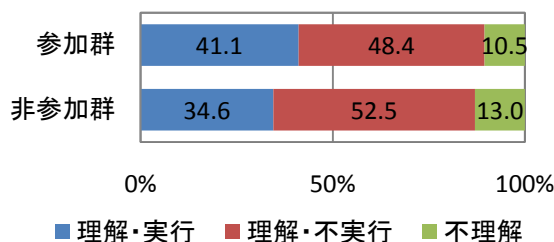


図15 ボランティア活動参加群・非参加群(入学後)(Q9-2)と将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(全体N=1469)

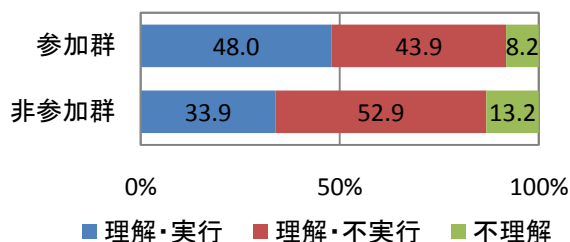


図16 インターンシップ参加群・非参加群(入学後)(Q10-2)と将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)との関連(全体N=1469)

4. 2種類のライフをうまく形成している学生の特徴は？

上記では、Q12-2の将来の見通しの実現への理解と実行(「理解・実行」「理解・不実行」「不理解」)が、ボランティア活動やインターンシップなども含めたキャリア教育、キャリア形成支援と密接に関連しているという結果を示してきた。人生としてのライフ(将来の見通し)だけでなく、日常生活としてのライフの形成にも、そうしたキャリア教育、キャリア形成支援は貢献しているという理解である。この点は繰り返になるが、重要な点として何度も強調しておきたい。

他方で、学期はじめに計画的に科目履修をしなければならないキャリア教育と、状況依存的に参加することのできるキャリア形成支援との差が顕著に見られたように(「2」、p.9を参照)、学生のキャリア形成は学生自身が持つ大学生生活観、人生観に大きく影響を受けているとも考えられる。

ここではこれらの点を明らかにするべく、上記の分析で用いたQ12-2(将来の見通しの実現への理解と実行、「理解・実行」「理解・不実行」「不理解」)を独立変数として、他の項目を従属変数とした関連の分析をおこなってみた。紙面の関係から結果をすべて示すことができないが、重要な点をまとめて示すこととする。

第1に、人生観はさほど大きな影響を及ぼしていないと考えられることである。たとえば、Q27(仕事をいつまで続けるか)、Q28(理想の仕事)、Q29(仕事と余暇の関係)との関連を見ると、若干「理解・実行」群が特徴的な傾向を示すということはあるものの、人生観が2種類のライフのバランスのいい形成を強く

規定していると言えるほどの結果ではない。

第2に、大学生生活観の方は興味深い差を示していた。とくに、Q7(大学生生活の重点)との関連においては顕著な差を示した。図7(p.27)を見ると、全体的には両学年ともに「何事もほどほどに」でもっとも多く、次いで「勉強第一」が多く見られた。しかしながら、Q12-2との関連で示すと(図17)、「理解・実行」群でもっとも多く見られたのは「勉強第一」であった(30.3%)。他の2群(「理解・不実行」「不理解」群)では、全体の傾向と同じく「何事もほどほどに」がもっとも多く見られ(それぞれ23.2%、28.1%)、「不理解」群ではさらに、2番目に多く見られたのが「勉強第一」ではなく「豊かな人間関係」であった(16.2%)。これらは、2種類のライフの形成が大学生生活観、しかも学業と密接に関連していることを示している。

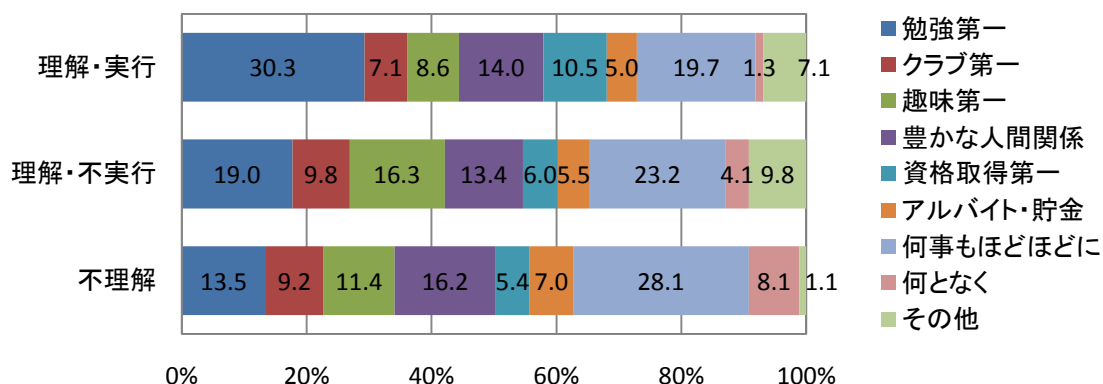


図17 将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)と大学生生活の重点(Q7)との関連 (全体N=1469)

そして、その観点に立って「大学での学びの目的」を測定するQ2との関連を見ると、「理解・実行」「理解・不実行」「不理解」群のあいだで有意差が見られたのは(一要因分散分析)、以下の項目群であった。テューキー法による多重比較の結果、いずれも、「理解・実行」群で得点をもっとも高く、「不理解」群で得点をもっとも低い。「理解・不実行」群は「理解・実行」群に近いものもあるし、「不理解」群に近いものもある。

注目すべきは、こうした有意差が、「いろいろな人と出会える」(項目1)、「人間関係が豊かになる」(項目5)といった大学での学びの目的はもちろんのこと、「視野を広げたい」(項目6)、「幅広い教養を身につけたい」(項目8)などで見られないことである。2種類のライフの形成には単に大学での勉強が重要であるだけでなく、将来とのつながりを多かれ少なかれ見据えた勉強をしていること、そうでなくても、自分の将来にとって日々の勉強が何であるかを理解できるような意味づけの作業が必要であることを、この結果は示唆している。ただ漠然と与えられる勉強をするまじめな学生では、2種類のライフをバランスよく形成していくのは難しいということである。

- ・項目16:なりたい職業や、資格のため(p<.001、理解・実行、理解・不実行>不理解)
- ・項目17:高い専門性を身につけたいから(p<.001、理解・実行、理解・不実行>不理解)
- ・項目18:現在関わっている活動や仕事上、勉強することが必要であるから(p<.001、理解・実行>理解・不実行>不理解)
- ・項目19:自分自身が関わった活動や仕事に関する事柄を学びたいから(p<.001、理解・実行、理解・不実行>不理解)
- ・項目21:なんとなく勉強しているだけだ(逆転項目)(p<.001、理解・実行>理解・不実行>不理解)
- ・項目22:義務的に勉強している(逆転項目)(p<.001、理解・実行>理解・不実行>不理解)
- ・項目23:ほかにやりたいことがなかったから(逆転項目)(p<.001、理解・実行>理解・不実行、不理解)
- ・項目24:特に学びたいものがあるから(p<.05、理解・実行>理解・不実行、不理解)

ほか、「理解・実行」群を特徴づける以下2点の結果もあわせて示しておく。図18の結果は、「理解・実行」群がそれ以外の群に比べて参加型授業への参加率が高いというものである(「よく参加してきた」「まあまあ参加してきた」の合算で「理解・実行」(66.7%)、「理解・不実行」(47.7%)、「不理解」(48.7%)。)

図19の結果は、「1週間の過ごし方」(Q5)における学業項目との関連である。「大学の授業や実験」(項目1)、「授業に関する勉強」(項目2)における「理解・実行」「理解・不実行」「不理解」群の差は見られないが、「授業とは関係のない勉強」(項目3)においては3群の差は大きく見られた(図19)。週6時間以上勉強している者の割合を合算すると、「理解・実行」群で28.9%、「理解・不実行」群で14.0%、「不理解」群で10.3%となっている。

上記の結果では、「理解・実行」群は「勉強第一」という学生生活観を持っており、かつ将来とのつながりを見据えた勉強をしている点に特徴があると考えられた。加えて図18、19の結果は、主体的に学ぶ意欲の高い学生像を私たちに示してくれる。

こうして、学生のキャリア形成における2種類のライフの形成には、単に大学で勉強することが重要なのではなく、自らの将来、成長に向けて何が自分にとって重要であるかをいろいろ意味づけながら勉強することが重要なのだと考えられる。われわれは、キャリア教育、キャリア形成支援の取り組みをよりよく発展させなければならないのと同時に、こうした学生群が示す特徴をも日々育てていかなければならない。そして、この両次元の弁証法的な関係が学生のキャリア形成を促していくのだと考えられる。

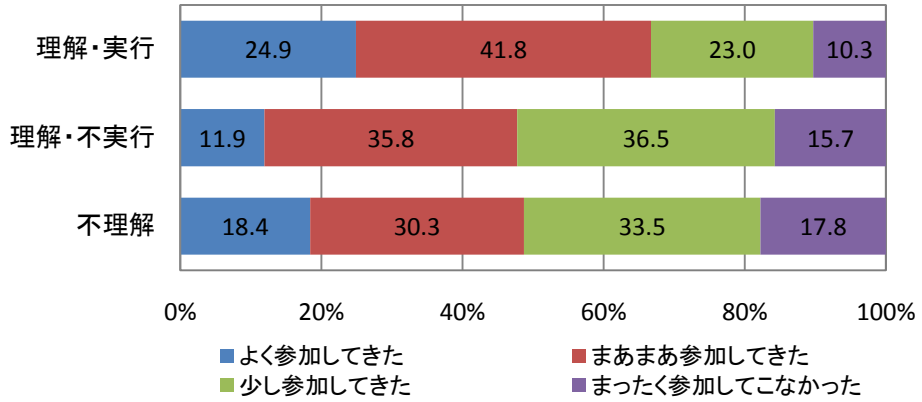


図18 将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)と参加型授業への参加(Q15-1)との関連(全体N=1469)

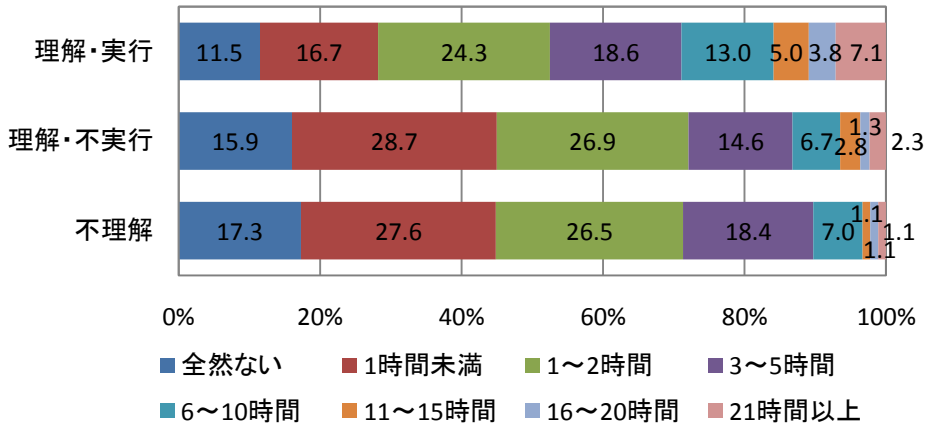


図19 将来の見通しの実現への理解と実行(Q12-2)と1週間の過ごし方(Q5)の「授業とは関係のない勉強」との関連(全体N=1469)

6. 最後に

以下のページでは、ここでの考察で取り扱わなかったさまざまな項目の結果が示されている。あわせて参考にももらえればと思う。

また、クロス分析によるより詳細な結果、ならびに心理尺度である「進路選択に対する自己効力」「学習意欲」を用いた本格的な検討結果は、下記の電通育英会ホームページに2008年12月頃掲載予定である。

<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>

残念ながら紙面の関係で、近年注目されているコンピテンシーや汎用的技能などの技能の問題にほとんど触れることができなかったが、この点今後の課題としたい。近年のキャリア教育やキャリア形成支援の傾向は、2種類のライフで説明すれば、人生としてのライフの形成を中心としつつも、徐々に日常生活としてのライフの形成に焦点を広げつつある。日常生活としてのライフの形成のほうは、日々の努力や忍耐が問われるだけに、人生としてのライフよりも扱いが難しいかもしれない。コンピテンシーや汎用的技能の問題もここに関連してくる。今後より検討していかねばならない問題である。

(溝上 慎一)

Q1 大学進学「最」重視点

[出典]関西学院大学総合教育研究室「カレッジ・コミュニティ調査の分析に関する研究」プロジェクト

大学進学目的としてもっとも重視した点を一つだけ選ばせたところ、「入学前」では1年生と3年生ともに、「専門知識、技術の修得」がもっとも多かった(1年生23.8%、3年生25.3%)。次いで多く見られたのは、1年生では「就職に有利」(14.5%)、「教養や視野の拡大」(11.1%)、3年生では「教養や視野の拡大」(15.2%)、「就職に有利」(13.6%)であった。

同じ項目について調査した「第14回カレッジコミュニティ調査(2006年度版)」において、1番多かったものから順に3つあげると「教養や視野の拡大」(30.0%)、「就職に有利」(14.7%)、「専門知識、技術の修得」(12.2%)であった。今回の調査では、1年生、3年生を問わず、1位の「教養や視野の拡大」と3位の「専門知識、技術の修得」とが入れ替わっており、教養よりも専門的知識を求める傾向が高い傾向があったと考えられる。

また、「現在」でも1年生と3年生ともに、「専門知識、技術の修得」がもっとも多かった(1年生25.9%、3年生25.9%)。次いで多く見られたのは、「教養や視野の拡大」(1年生12.7%、3年生16.0%)、「就職に必要な勉強をする」(1年生12.1%、3年生10.2%)であった。

同じ項目について調査した「第14回カレッジコミュニティ調査(2006年度)」において、1番多かったものから順に3つあげると「教養や視野の拡大」(23.5%)、「青春を楽しむ」(17.5%)、「専門知識、技術の修得」(14.8%)であった。今回の調査では、1年生、3年生ともに、「青春を楽しむ」は4位であり、「カレッジコミュニティ調査」時ほど重視されていないようであった。また、今回の調査で多くみられた「就職に必要な勉強をする」は「カレッジコミュニティ調査」では、「就職に有利」(9.3%)、「立派な人間形成」(8.7%)に次ぐ6位(6.4%)にとどまっていた。「立派な人格形成」の項目は、今回の調査ではかなりポイントが低かった(1年生2.7%、3年生4.8%)。

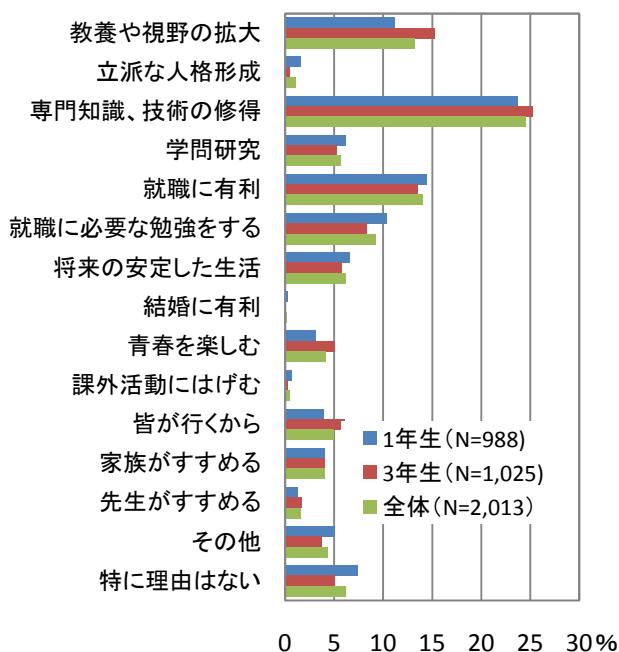


図1-1 大学進学「最」重視点(入学前)

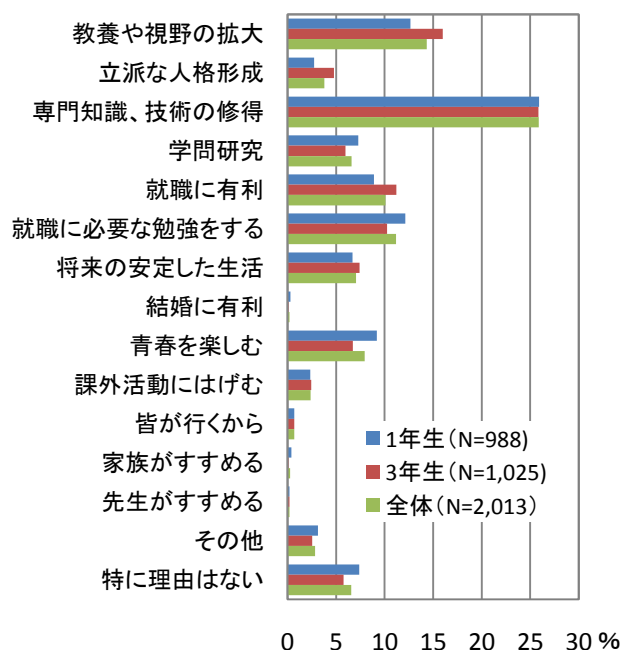


図1-2 大学進学「最」重視点(現在)

Q2 大学での学びの目的

[出典]浅野志津子(2002). 学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程—放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から—. 教育心理学研究, 50,141-151.

大学での学びの目的を25項目について尋ねたところ、1年生と3年生ともに、「自分を高めたい」(1年生3.42、3年生3.45)、「視野を広げたい」(1年生3.37、3年生3.44)、「自分の幅を広げたい」(1年生3.34、3年生3.38)、「幅広い教養を身につけたい」(1年生3.33、3年生3.33)といった自己向上志向の項目で高い平均点が見られた。

他方、「ほかにやりたいことがなかったから」(1年生2.03、3年生2.13)、「義務的に勉強している」(1年生2.15、3年生2.19)、「なんとなく勉強しているだけだ」(1年生2.25、3年生2.36)は低い平均点であった。

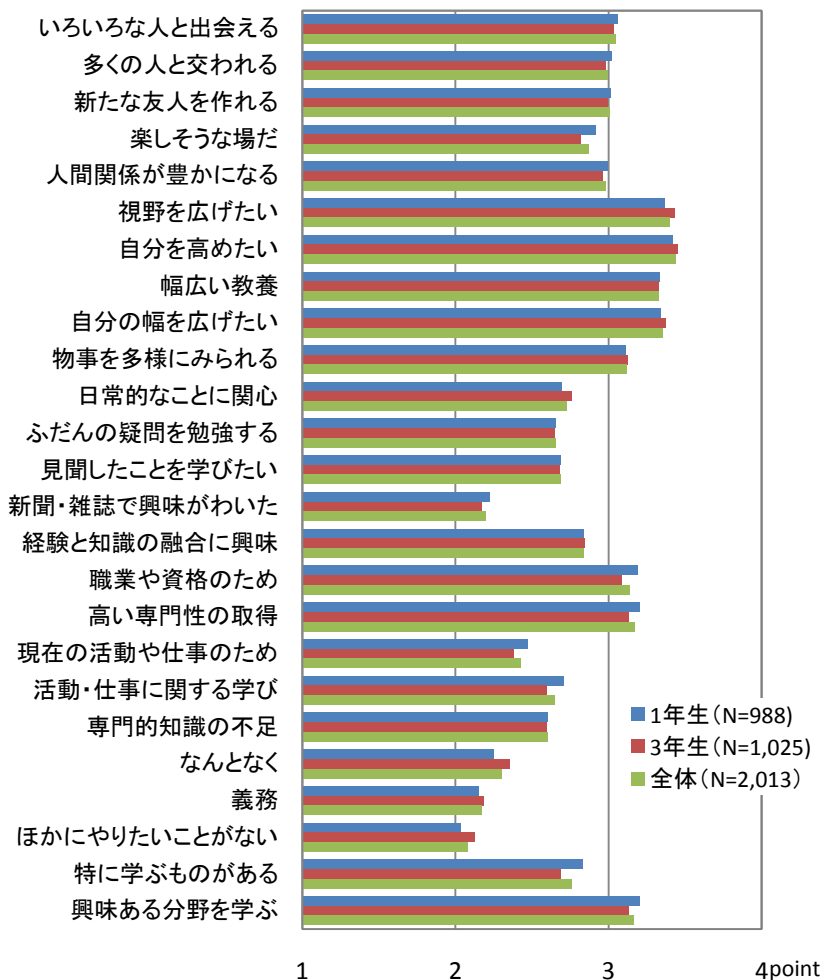


図2 大学での学びの目的

Q3 学習意欲

[出典]浅野志津子(2002). 学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程—放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から—. 教育心理学研究, 50,141-151.

学習意欲の程度は中の上程度。1年生、3年生ともに、「常に学びたい気持ちがある」(1年生2.76、3年生2.84)、「自分では学習意欲は高い方だと思う」(1年生2.72、3年生2.72)という意識が見られる。

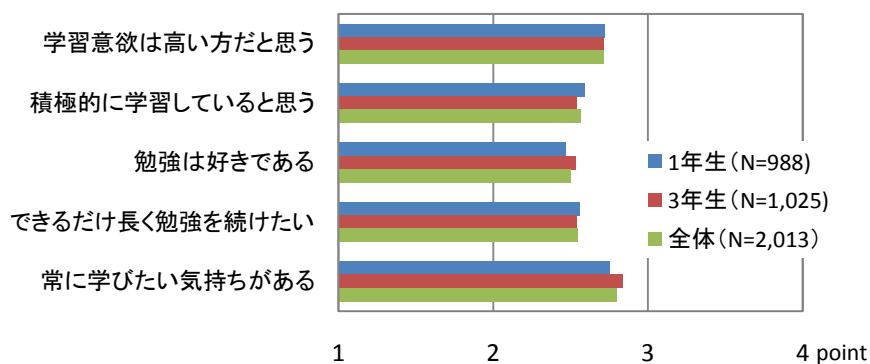


図3 学習意欲

Q4 大学教育で習得する知識と技能・態度

大学でどの程度知識・技能・態度が身についたか、授業・授業外に分けて質問をおこなった。

1) 授業で身についた知識・技能・態度:

全体的に見て平均点は中程度で、突出した平均点を示す項目は見られなかった。その中で、1年生、3年生ともに「コンピュータ・インターネットの操作能力」(1年生2.93、3年生2.92)、「専門分野で研究するための基礎的な学力と技術」(1年生2.80、3年生2.87)はやや高め。教養科目が中心の1年生でも「専門外にわたる幅広い教養」が身についたは平均程度(2.66)。「創造性」(1年生2.50、3年生2.42)、「対話の能力」(1年生2.47、3年生2.44)、「競争心」(1年生2.43、3年生2.39)、「リーダーシップ能力」(1年生2.15、3年生2.13)は1年生、3年生共に中程度以下。授業では身につけていないとする者が多かった。

2) 授業以外で身についた知識・技能・態度:

1年生、3年生ともにもっとも高い平均点を示したのは「他人との協調性」(1年生2.87、3年生3.00)であった。3年生のこの平均点は、「授業」で身についた知識・技能を含めて比較しても、もっとも高いものであった。

ほか、「チャレンジ精神」(1年生2.78、3年生2.82)、「対話の能力」(1年生2.75、3年生2.89)、「忍耐強く継続して物事に取り組む力」(1年生2.72、3年生2.89)も、1年生、3年生ともにやや高めの平均点を示していた。

日本の国立大学10大学の1,2年生の学生を対象に、「外国語でのコミュニケーション能力」までの10項目について調査した秦由美子代表の科研調査(2007)(以下、「秦科研調査」と表記)との結果と比較すると、次のことがいえる。まず、秦科研調査では中央値である2.5を超える項目が少ないことが指摘されている。具体的には、授業で身についた知識・技能・態度については、1年生においては1項目(「専門外にわたる幅広い教養」(2.68))のみ、2年生においても3項目(「専門分野で研究するための基礎的な学力と技術」(2.73)、「専門外にわたる幅広い教養」(2.72)、「分析を通しての批判的思考力」(2.54))のみが中央値である2.5点を上回っていた。授業以外で身についた知識・技能・態度については1年生では3項目(「対話の能力」(2.90)、「専門外にわたる幅広い教養」(2.64)、「日本語でのコミュニケーション能力」(2.53))が、2年生では5項目(「対話の能力」(3.02)、「専門外にわたる幅広い教養」(2.92)、「日本語でのコミュニケーション能力」(2.75)、「市民性と倫理的責任感」(2.72)、「情報の管理能力と技術」(2.57))が中央値を上回っていた。

ところが今回の調査では、授業で身についた知識・技能・態度は、中央値である2.5を上回る項目は1年生では18項目、3年生では17項目あった。秦科研調査で用いた10項目に限っても、1年生、3年生ともに6項目あげられた。加えて、この10項目の得点は、秦科研調査の結果よりもすべて得点が高かった。

それに対して授業以外で身についた知識・技能・態度は、中央値である2.5を上回る項目は1年生11項目、3年生15項目であった。秦科研調査で用いた10項目に限ると1年生3項目、3年生5項目であり、秦科研調査(2007)とほぼ同様の結果であった。ただしこの10項目の得点は、「起業家精神」(1年生1.94、3年生1.86; 秦科研調査1年生1.67、2年生1.75)、「情報の管理能力と技術」(1年生2.41、3年生2.61; 秦科研調査1年生2.31、2年生2.54)および1年生の「専門的知識を生かす応用力」(1年生2.33、秦科研調査

年生2.17)のみ秦科研調査の報告よりも高く、あとの7項目はほぼ同様か前の調査より低い得点であった。

授業で身についた知識・技能・態度の得点は高くなっていたが、授業以外で身についた知識・技能・態度の得点は秦科研調査の結果よりも全般的に低くなっているようであった。

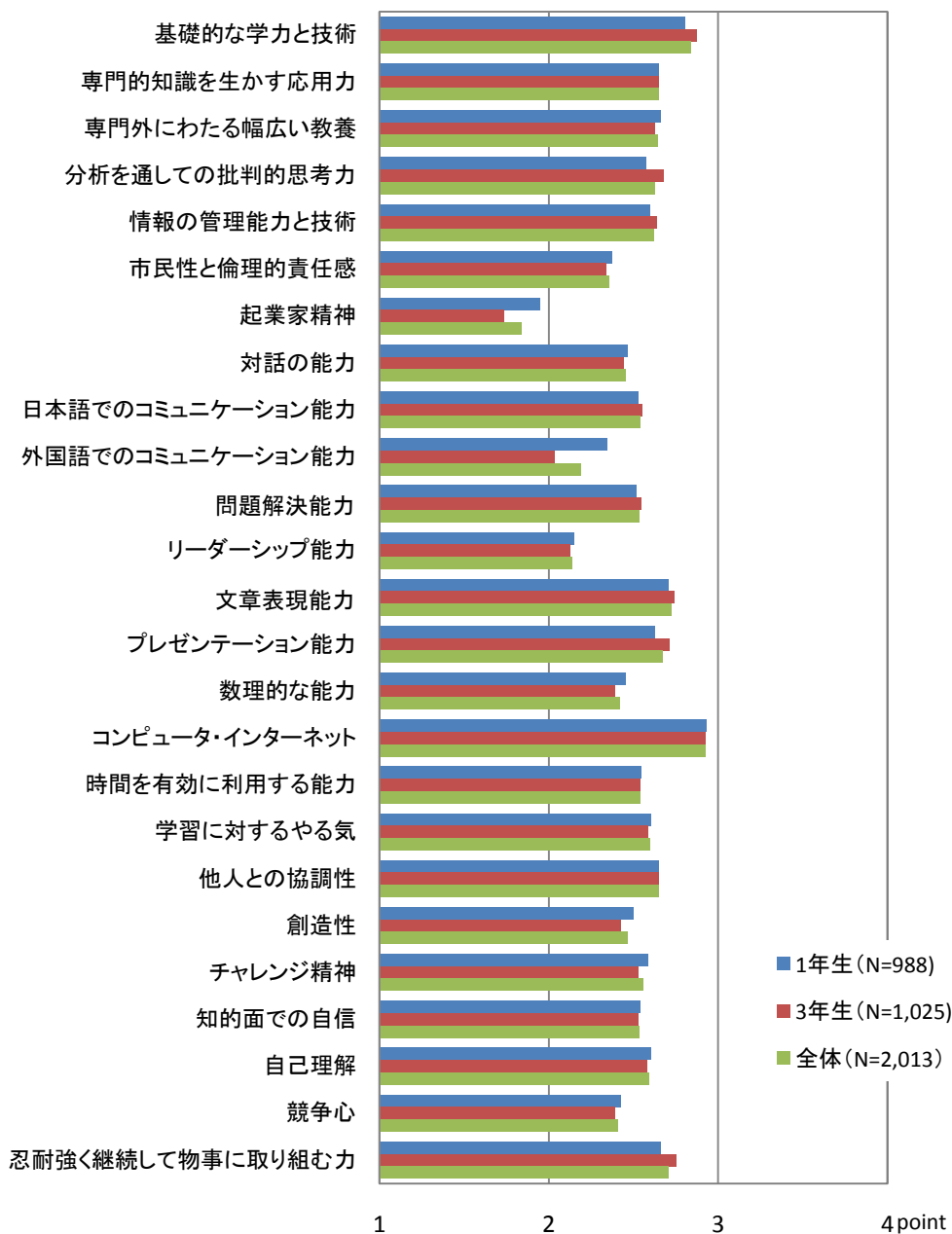


図4-1 授業で身についた知識・技能・態度

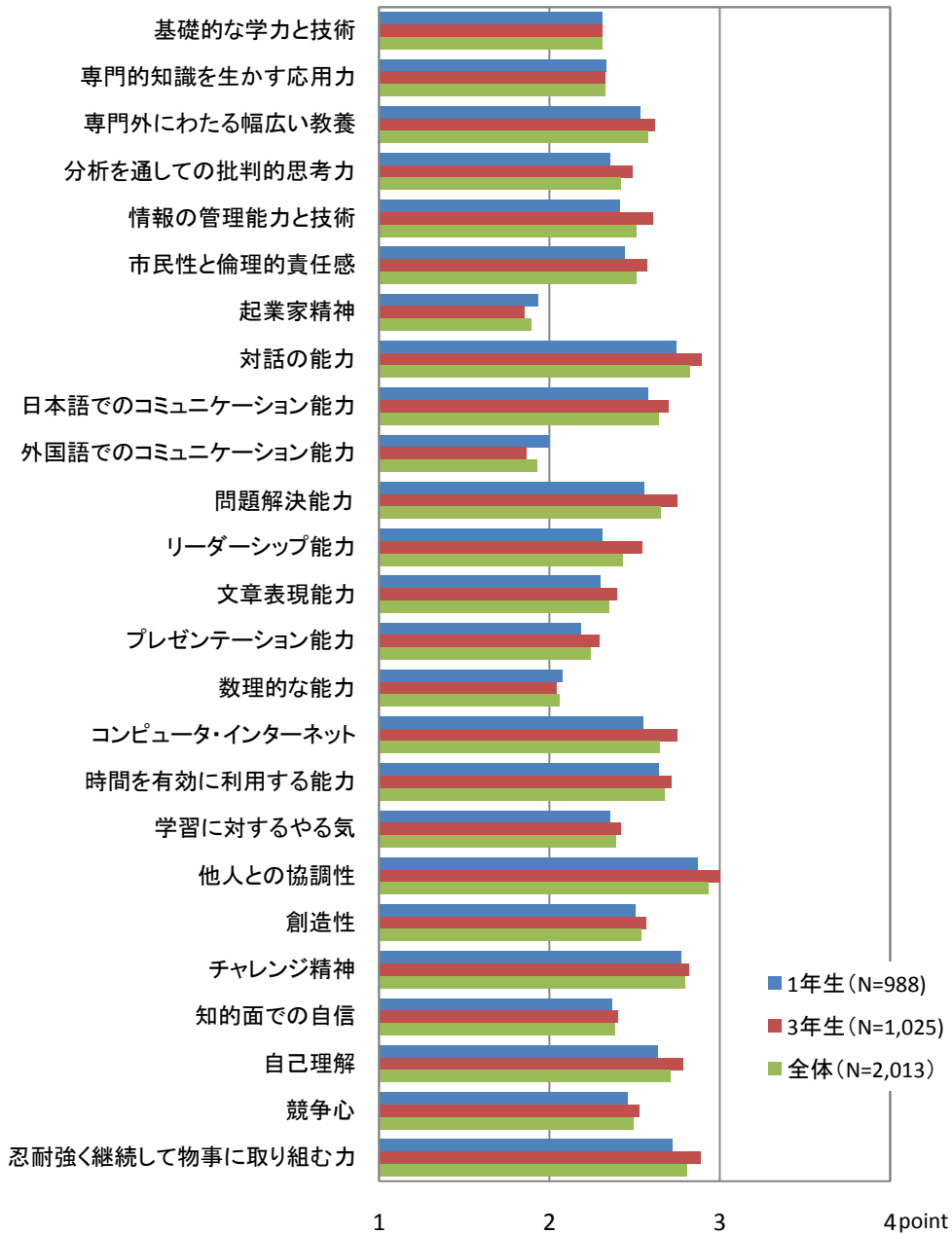


図4-2 授業以外で身についた知識・技能・態度

Q5、6 1週間の過ごし方

Q5

学生生活の主だった活動17項目について、週平均の活動時間を尋ねたところ、1年生、3年生ともにもっとも活動時間が多かったのは、「大学の授業や実験に参加」であり、6割以上の者が16時間以上を費やしており(1年生61.9%、3年生65.1%)、21時間以上の者も4割近くみられた(1年生37.4%、3年生36.8%)。次いで多かったのが「インターネットサーフィンをする」で、21時間以上の者が1年生では16.6%、3年生では19.5%みられた。16時間以上の者は3割弱、11時間以上では4割近くの者が該当し、6時間以上になると、6割程度の者が該当していた(1年生55.8%、3年生62.6%)。

11時間以上を基準に結果をとらえると、その他に、「家庭教師や塾講師以外のアルバイト」(1年生25.5%、3年生32.4%)、「テレビ」(1年生22.6%、3年生29.0%)、「通学」(1年生22.1%、3年生22.6%)、「同性の友達と交際」(1年生21.4%、3年生17.4%)などが、活動時間の多くを占めているようであった。

授業外学習(授業に関する予習、復習、宿題・課題など)を1日1時間もしない者は、1年生、3年生ともに70%も見られた(1年生70.7%、3年生71.1% *「全然ない」～「3～5時間」の合算)。

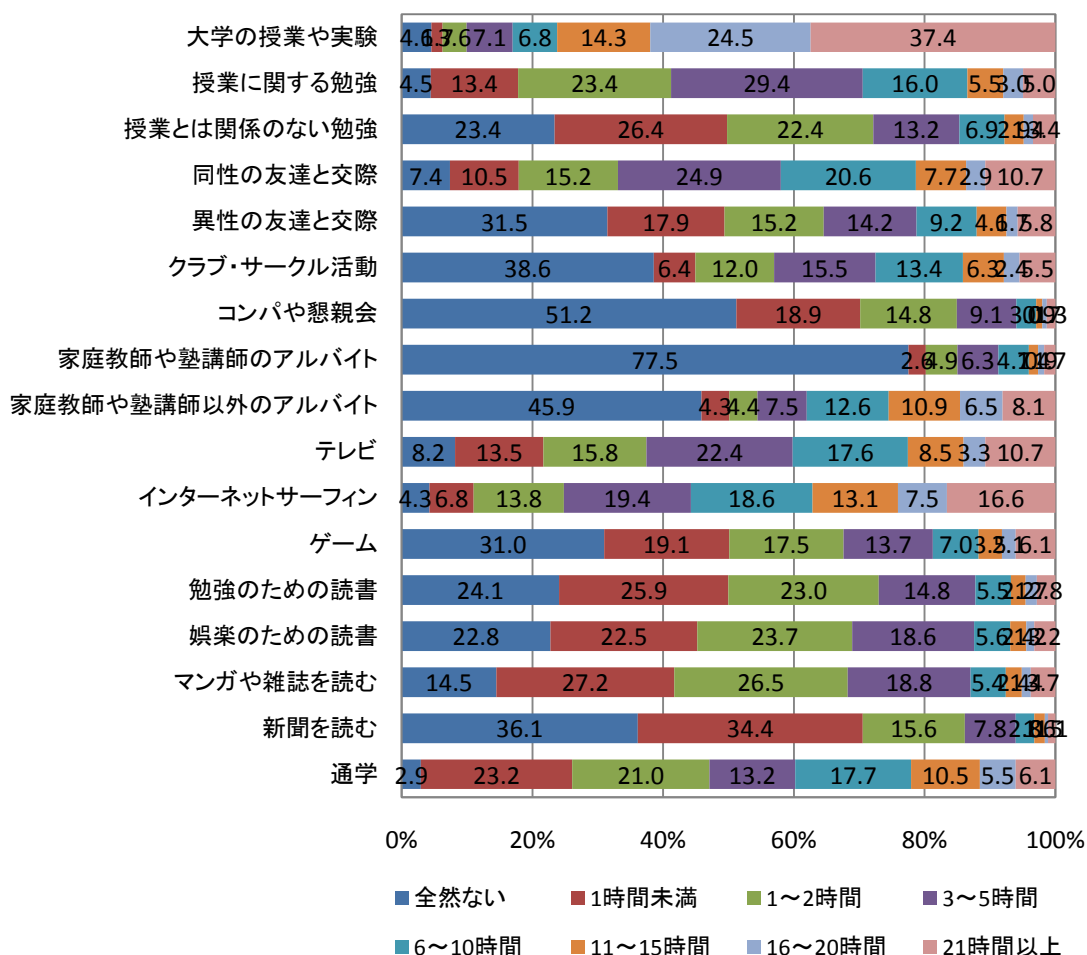


図5-1 主な活動の週平均活動時間(1年生) (N=988)

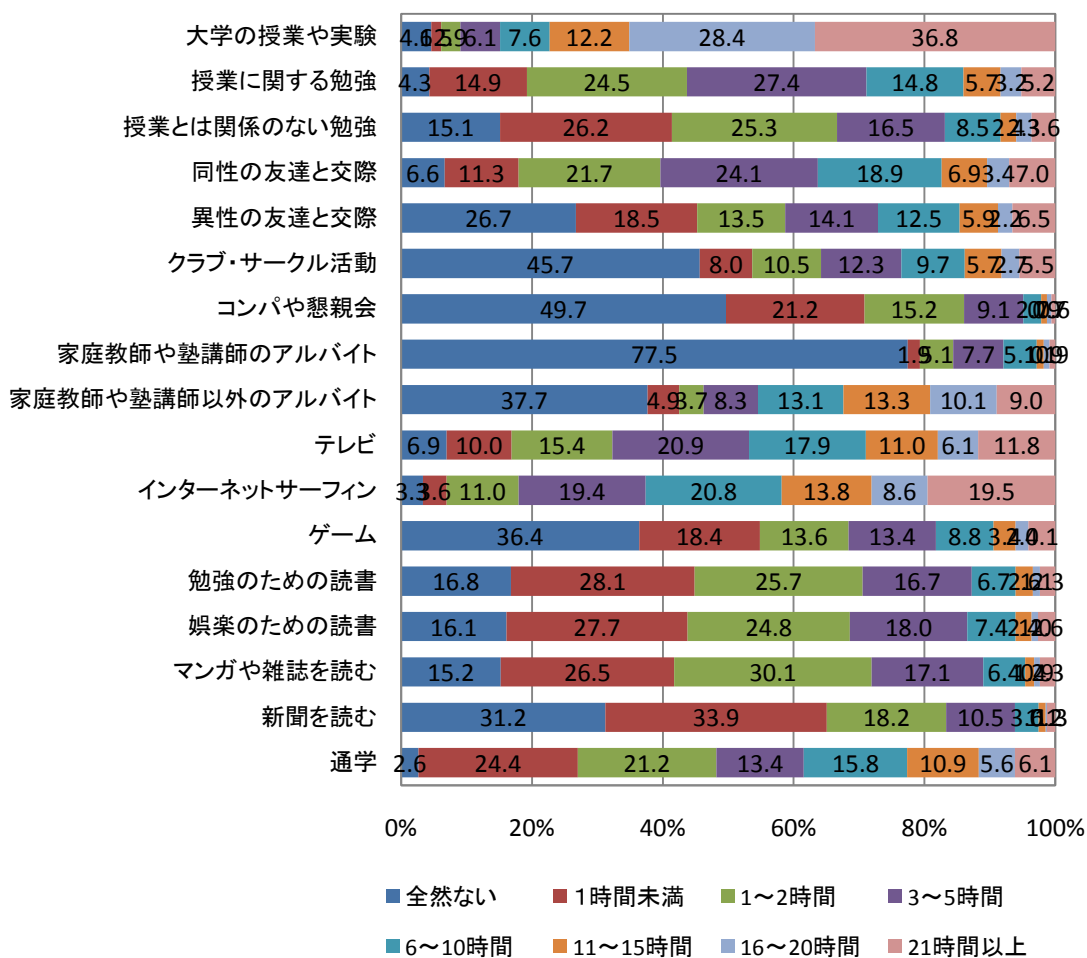


図5-2 主な活動の週平均活動時間(3年生) (N=1,025)

表1 学生生活の主だった活動の週平均の活動時間

		全然ない	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	21時間以上
大学の授業や実験	1年生	4.6	1.7	3.6	7.1	6.8	14.3	24.5	37.4
	3年生	1.6	1.2	2.1	7.5	12.7	20.9	22.7	31.3
授業に関する勉強	1年生	4.5	13.4	23.4	29.4	16.0	5.5	3.0	5.0
	3年生	4.3	14.9	24.5	27.4	14.8	5.7	3.2	5.2
授業とは関係のない勉強	1年生	23.4	26.4	22.4	13.2	6.9	2.9	1.4	3.4
	3年生	15.1	26.2	25.3	16.5	8.5	2.4	2.3	3.6
同性の友達と交際	1年生	7.4	10.5	15.2	24.9	20.6	7.7	2.9	10.7
	3年生	6.6	11.3	21.7	24.1	18.9	6.9	3.4	7.0
異性の友達と交際	1年生	31.5	17.9	15.2	14.2	9.2	4.6	1.7	5.8
	3年生	26.7	18.5	13.5	14.1	12.5	5.9	2.2	6.5
クラブ・サークル活動	1年生	38.6	6.4	12.0	15.5	13.4	6.3	2.4	5.5
	3年生	45.7	8.0	10.5	12.3	9.7	5.7	2.7	5.5
コンパや懇親会	1年生	51.2	18.9	14.8	9.1	3.0	0.9	0.7	1.3
	3年生	49.7	21.2	15.2	9.1	2.7	0.9	0.7	0.6
家庭教師や塾講師のアルバイト	1年生	77.5	2.6	4.9	6.3	4.7	1.4	0.9	1.7
	3年生	77.5	1.9	5.1	7.7	5.1	1.1	0.9	0.9
家庭教師や塾講師以外のアルバイト	1年生	45.9	4.3	4.4	7.5	12.6	10.9	6.5	8.1
	3年生	37.7	4.9	3.7	8.3	13.1	13.3	10.1	9.0
テレビ	1年生	8.2	13.5	15.8	22.4	17.6	8.5	3.3	10.7
	3年生	6.9	10.0	15.9	20.9	17.9	11.0	6.1	11.8
インターネットサーフィン	1年生	4.3	6.8	13.8	19.4	18.6	13.1	7.5	16.6
	3年生	3.3	3.6	11.0	19.4	20.8	13.8	8.6	19.5
ゲーム	1年生	31.0	19.1	17.5	13.7	7.0	3.5	2.1	6.1
	3年生	36.4	18.4	13.6	13.4	8.8	3.4	2.0	4.1
勉強のための読書	1年生	24.1	25.9	23.0	14.8	5.5	2.2	1.7	2.8
	3年生	16.8	28.1	25.7	16.7	6.7	2.6	1.1	2.3
娯楽のための読書	1年生	22.8	22.5	23.7	18.6	5.6	2.4	1.2	3.2
	3年生	16.1	27.7	24.8	18.0	7.4	2.4	1.0	2.6
マンガや雑誌を読む	1年生	14.5	27.2	26.5	18.8	5.4	2.4	1.4	3.7
	3年生	15.2	26.5	30.1	17.1	6.4	1.4	0.9	2.3
新聞を読む	1年生	36.1	34.4	15.6	7.8	2.8	1.6	0.5	1.1
	3年生	31.2	33.9	18.2	10.5	3.6	1.1	0.2	1.3
通学	1年生	2.9	23.2	21.0	13.2	17.7	10.5	5.5	6.1
	3年生	2.6	24.4	21.2	13.4	15.8	10.9	5.6	6.1

Q6

同17項目の活動について、将来の仕事や人生設計への貢献度を尋ねたところ、もっとも高く評価されたのは、1年生、3年生ともに「クラブ・サークル活動」(1年生3.87、3年生3.96)であった。次いで高く評価されたのは、「大学の授業や実験」(1年生3.83、3年生3.87)、「同性の友達との交際」(1年生3.77、3年生3.79)であった。

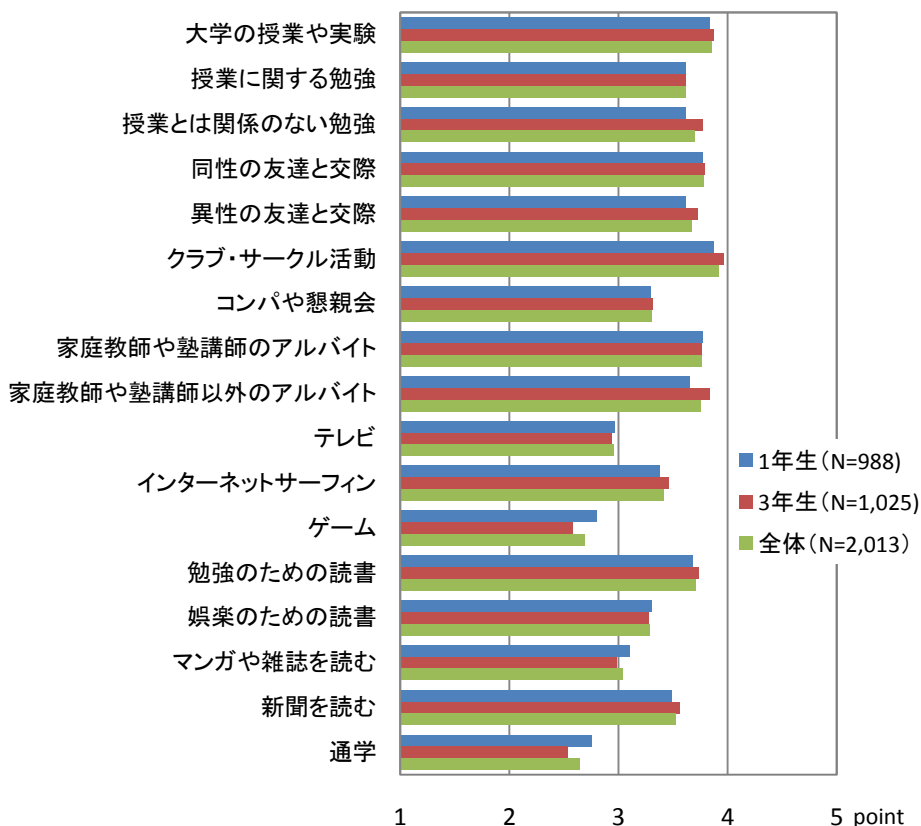


図6 学生生活の仕事や人生設計等への将来貢献度

Q7 大学生活の重点

[出典]全国大学生生活協同組合連合会「学生の消費生活に関する実態調査」

大学生活の重点を、8つの選択肢から1つだけ選ばせたところ、1年生、3年生ともにもっとも多く見られたのは「何事もほどほどに」(1年生24.3%、3年生22.2%)、次いで、「勉強第一」(1年生20.5%、3年生19.6%)であった。

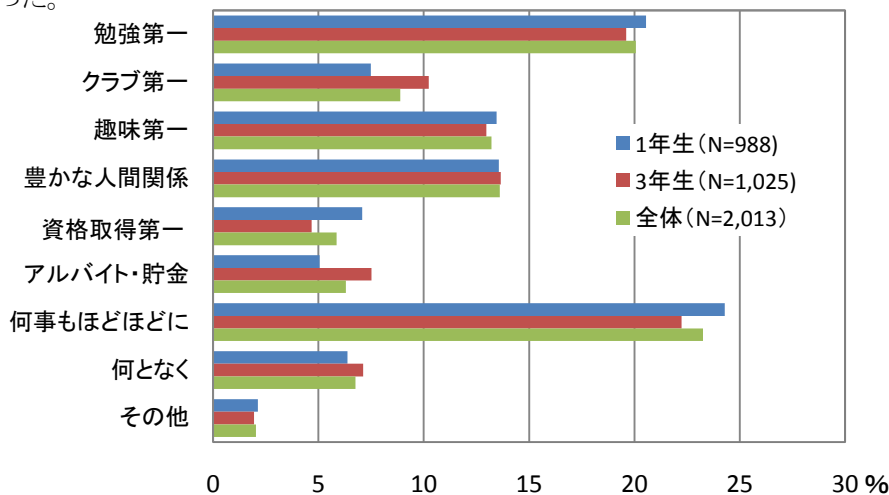


図7 大学生活の重点

同じ項目について調査した全国大学生生活協同組合連合会「第43回学生の消費生活に関する実態調査」(2007年度)(以下、「大学生協連調査」と表記)において多くみられたものは「勉強第一」(24.2%)、「何事もほどほどに」(21.3%)、「豊かな人間関係」(15.0%)、「クラブ第一」(14.5%)であった、今回の調査と比べ、「何ごとともほどほどに」よりも「勉強第一」が多いこと、「趣味第一」よりも「クラブ第一」が多いことを指摘することができる。

Q8 学生生活の充実度

1年生、3年生ともに、7割の学生が学生生活に充実していると答えていた(1年生74.3%、3年生69.5% *「充実している」「まあまあ充実している」の合算)。

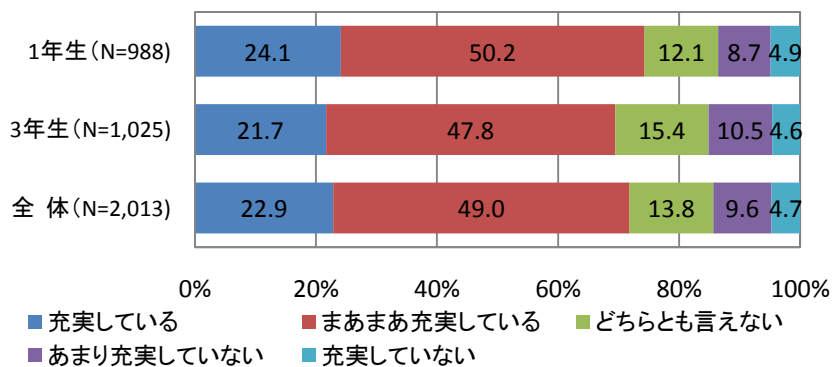


図8 学生生活の充実度

Q9 ボランティア活動への参加

「入学前」のボランティア活動の参加状況では、3年生より1年生の方がわずかに参加経験者の割合が高い(1年生47.3%、3年生40.7%)。大学入学前にすでに半数近くがボランティア活動を経験しており、入学後のボランティア経験は3割にとどまっている(1年生28.2%、3年生32.9%)。「かなり参加した」学生は入学前・入学後とも数%にすぎない(「入学前」1年生4.1%、3年生2.4%、「入学後」1年生3.4%、3年生3.5%)。

ボランティア活動が今の自分に影響があったとする者は、1年生、3年生ともに入学前は40%弱(1年生38.9%、3年生36.5%)、入学後は50%強(1年生53.4%、3年生51.0%)である。

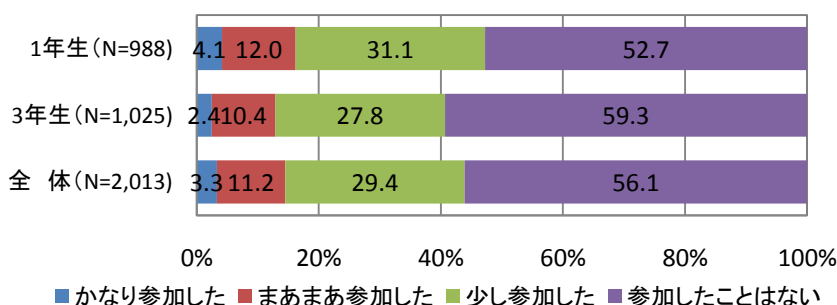


図9-1 ボランティア活動への参加(入学前)

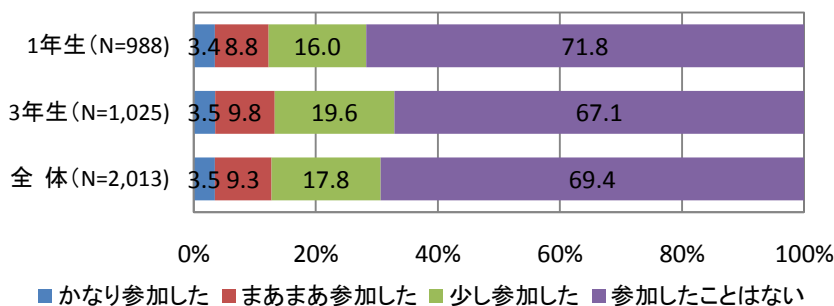


図9-2 ボランティア活動への参加(入学後)

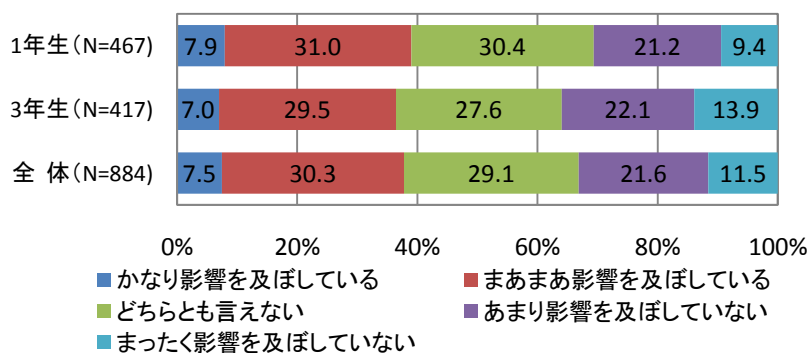


図9-3 ボランティア参加影響度(入学前)

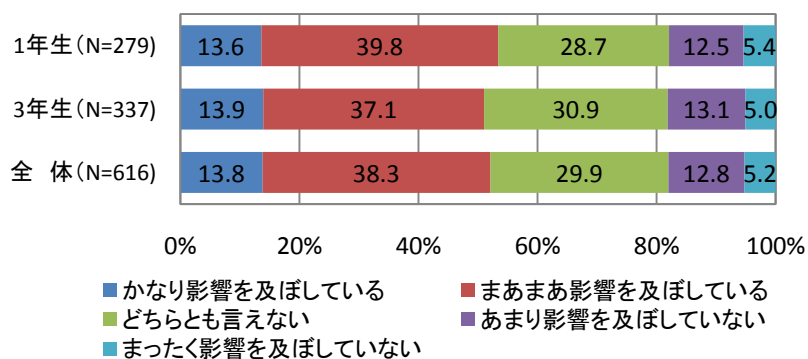


図9-4 ボランティア参加影響度(入学後)

Q10 インターンシップへの参加

「入学前」のインターンシップ参加の経験は、1年生(23.5%)が3年生(14.1%)よりも高かった。「入学後」は、3年生(27.1%)が1年生(13.0%)を上回っていた。

「入学前」のインターンシップ参加は、1年生、3年生ともに、約45%の学生が今の自分に影響を及ぼしたと感じているのに対し(1年生43.5%、3年生43.5% *「かなり」「まあまあ影響」の合算)、「入学後」のインターンシップ参加は、1年生(65.7%)、3年生(77.0%)ともに多くの影響を及ぼしたと感じている。

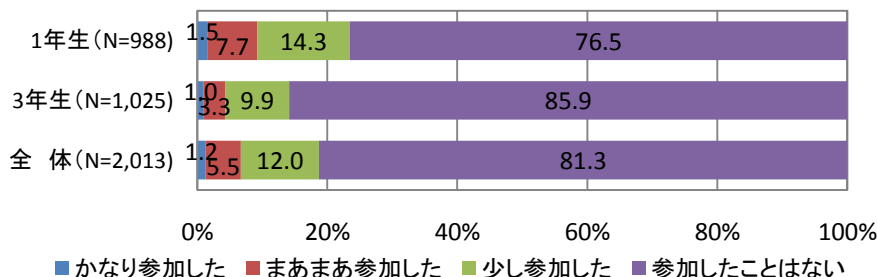


図10-1 インターンシップへの参加(入学前)

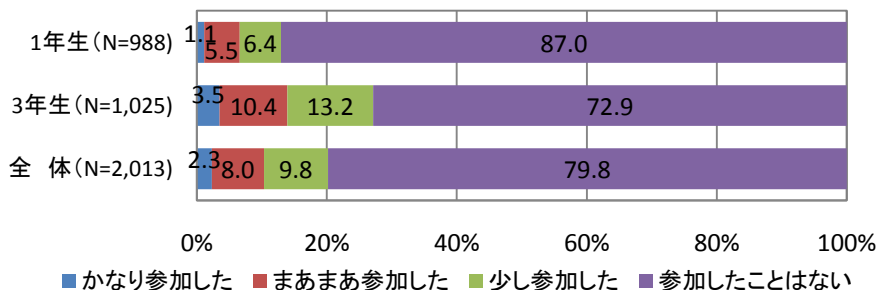


図10-2 インターンシップへの参加(入学後)

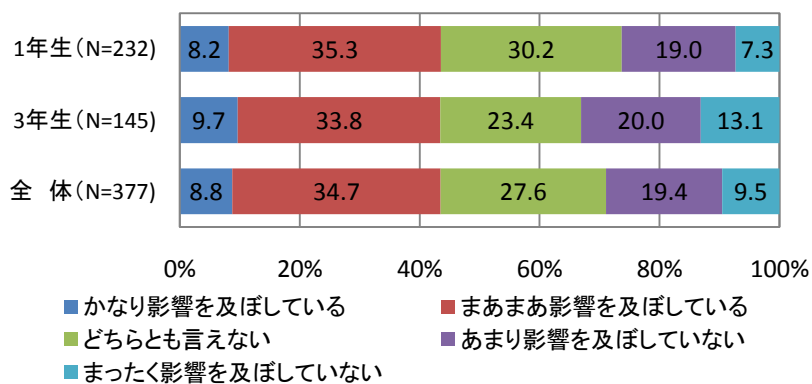


図10-3 インターンシップ参加の影響度(入学前)

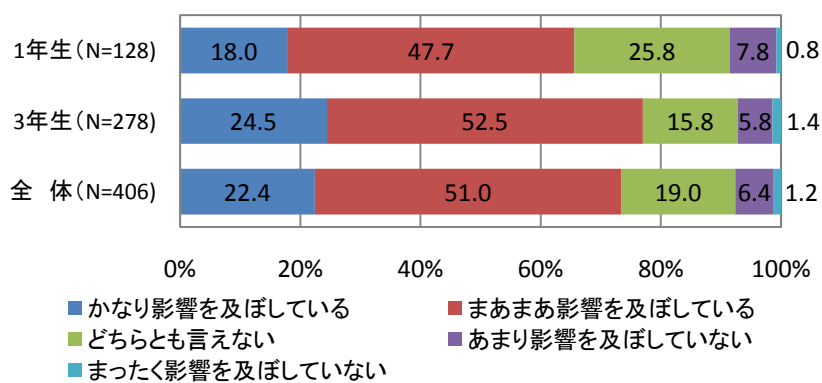


図10-4 インターンシップ参加の影響度(入学後)

Q11 中学・高校における就職や将来の生き方指導

中学・高校の進路指導では、3年生よりも1年生の方が、就職や将来の生き方について考える機会を与えられたと回答している(1年生68.1%、3年生56.8% *「かなり」「まあまあ与えられた」の合算)。「まったく与えられなかった」と回答する学生は、1年生、3年生ともに1割前後にすぎない(1年生7.2%、3年生13.0%)。

今の自分への影響度(*「かなり」「まあまあ影響」の合算)は、1年生(53.1%)が3年生(48.0%)よりも高い。

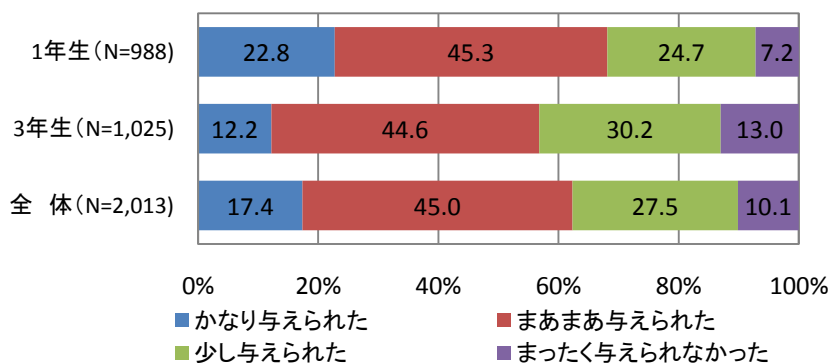


図11-1 中高校の進路指導で就職・将来を考える機会

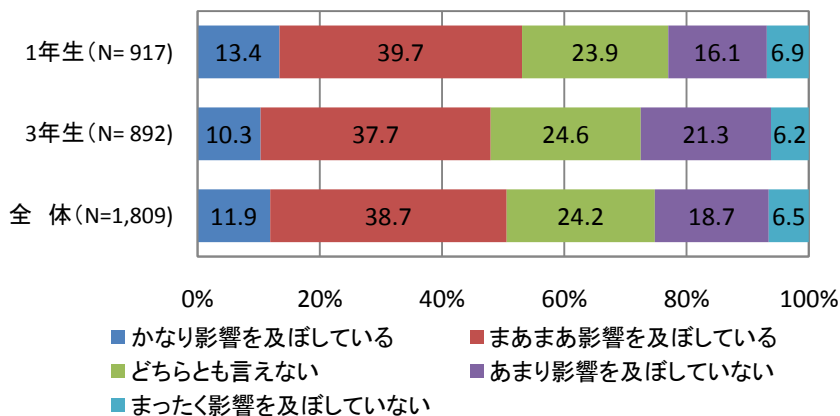


図11-2 中高校の進路指導の影響度

Q12 将来の見通しとその実行

[出典]溝上慎一(編)(2001). 大学生の自己と生き方—大学生固有の意味世界に迫る大学生心理学—. ナカニシヤ出版.

将来の見通しを持っているかどうかを尋ねたところ、1年生、3年生ともに7割以上の学生が将来の見通しを持っていると回答した(1年生72.8%、3年生73.2%)。

将来の見通しを持っている学生に対して、実現に向けた努力をしているかどうかを尋ねたところ、6~7割の学生が「何をすべきかはわかっているが実行はできていない」「何をすべきかはまだわからない」と回答した(1年生67.3%、3年生61.7%)。わずかながらその割合は1年生の方が高い。

将来の見通しを持っていない学生に対して、将来の見通しを積極的に求めているかどうかを尋ねたところ、ほぼ半数が「求めている」と回答した(1年生45.7%、3年生52.4%)。その割合は1年生より3年生の方が高かった。

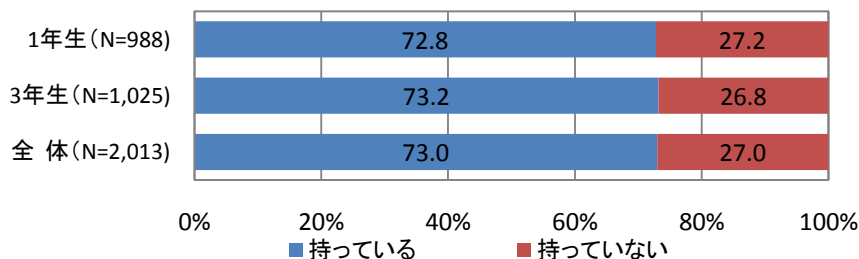


図12-1 将来の見通しを持っているか

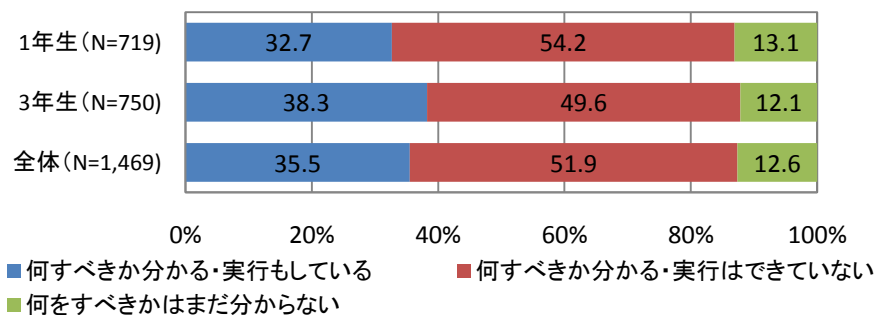


図12-2 将来見通しの実現への理解と実行 (見通しを持っている者対象)

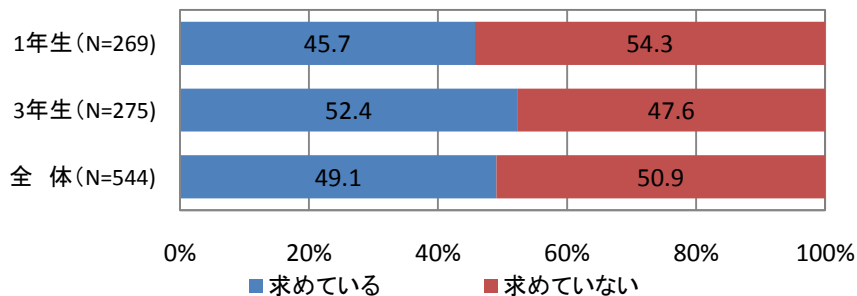


図12-3 将来見通しを求めているか(見通しを持っていない者対象)

同じ項目について調査したものには溝上(2001)の1200人調査があるが、それと比較すると今回の調査結果はほとんど同じものであることがうかがえた(1200人調査結果:将来の見通し:持っている72.9%、持っていない27.1%;理解と実行:理解・実行35.1%、理解・不実行45.6%、不理解19.3%;将来の見通しを求めているか:求める47.4%、求めない52.6%)。

Q13 将来設計

将来設計について5項目で尋ねたところ、1年生、3年生ともに、「「だいたいの将来設計はある」(1年生3.56、3年生3.58)が、「漠然としていてつかみどころがない」(1年生3.17、3年生3.22)”という意識が高く見られた。

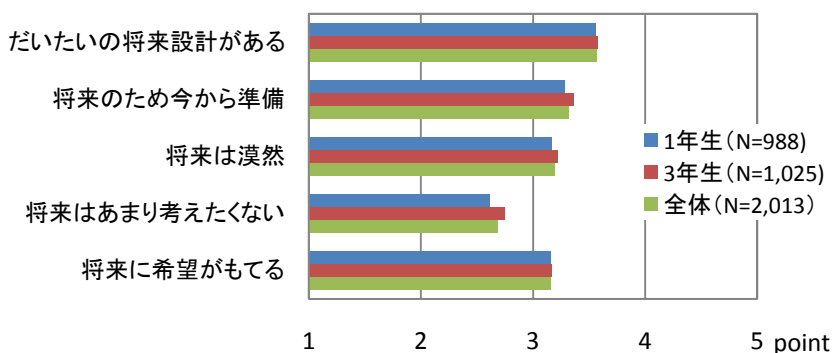


図13 将来設計の程度

Q14 将来どこまで進学するか

将来どこまで進学するかは、1年生、3年生ともに約75%の学生が「大学卒業」(1年生75.6%、3年生78.4%)を、約15%の学生が「大学院修士課程修了(専門職大学院を含む)」(1年生16.3%、3年生16.8%)であった。

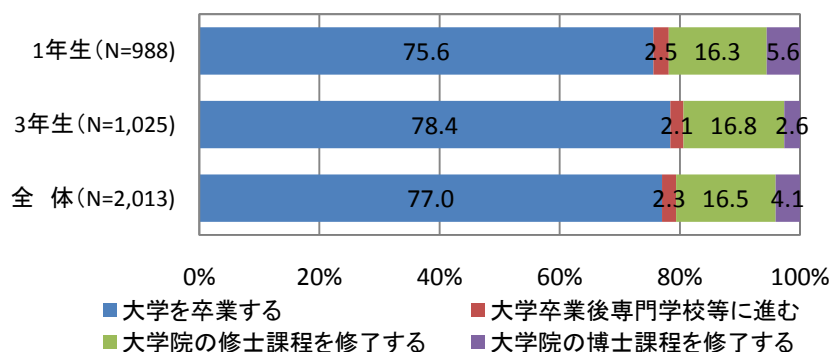


図14 将来どこまで進学するか

Q15 参加型授業への参加

参加型の授業・演習の参加状況(*「よく」「まあまあ参加」の合算)は、1年生(45.5%)より3年生(51.5%)の方がわずかながら高い。今の自分への影響度(*「かなり」「まあまあ影響」の合算)も、3年生(61.3%)の方が1年生(56.9%)よりも若干高い。

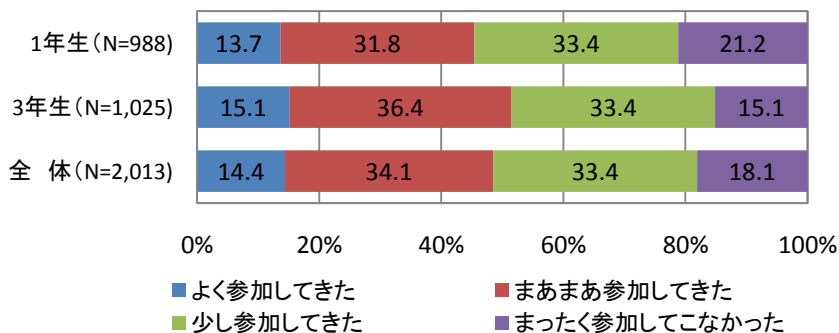


図15-1 参加型授業への参加

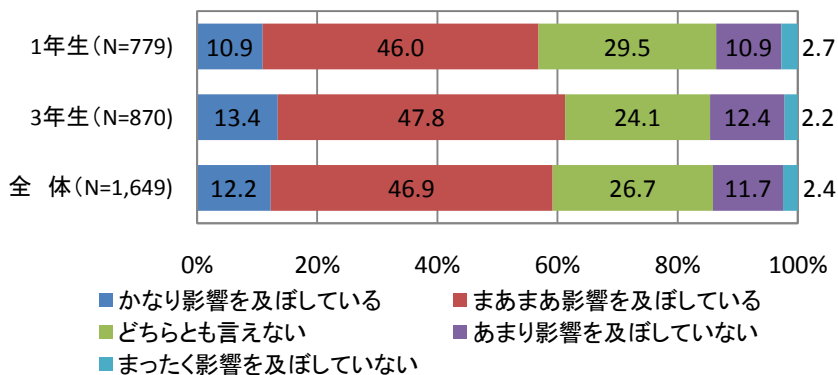


図15-2 参加型授業の影響度

Q16 キャリア形成科目への受講

キャリア形成科目の受講経験は、1年生、3年生ともに、46%の学生が持っていた(1年生46.1%、3年生46.4%)。今の自分への影響度(*「かなり」「まあまあ影響を及ぼしている」の合算)は、1年生47.9%、3年生49.4%で、ともに約半数の者が感じていた。

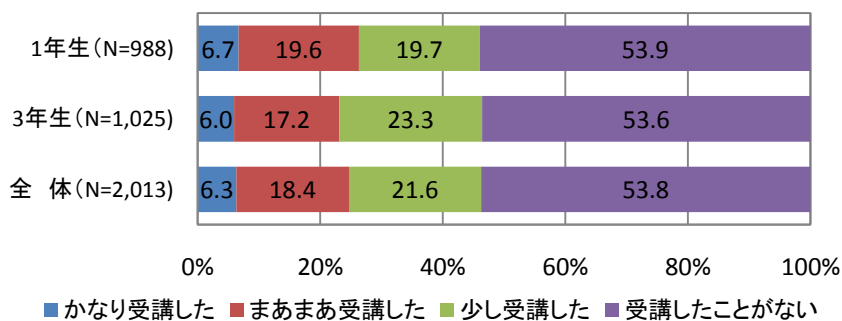


図16-1 キャリア形成科目の受講

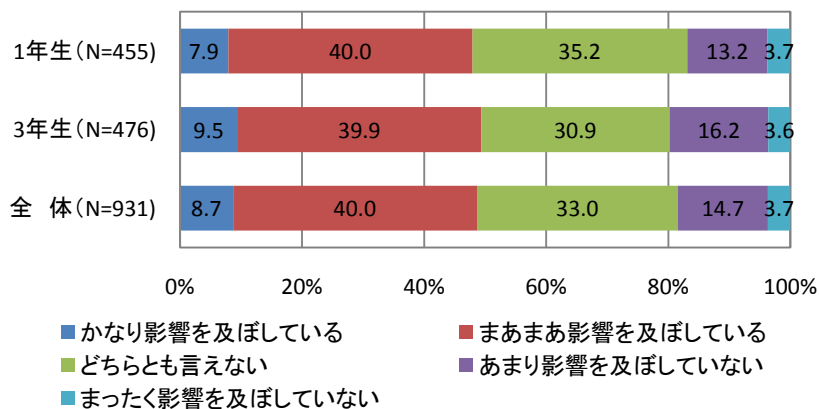


図16-2 キャリア形成科目受講の影響度

Q17 キャリア形成支援のためのセミナー・講座の受講

キャリアサポートセンターの主催するキャリア形成支援のためのセミナーや講座の受講経験は、1年生(22.7%)よりも3年生(60.6%)で断然高く見られた。今の自分への影響度(*「かなり」「まあまあ影響」の合算)も、3年生(57.6%)が1年生(43.3%)よりも高かった。

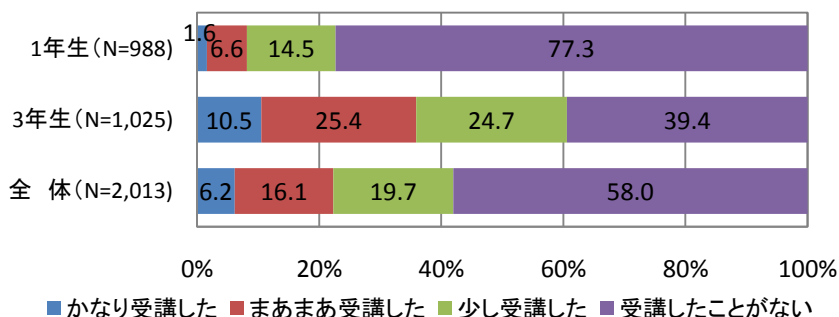


図17-1 キャリア形成支援セミナー・講座の受講

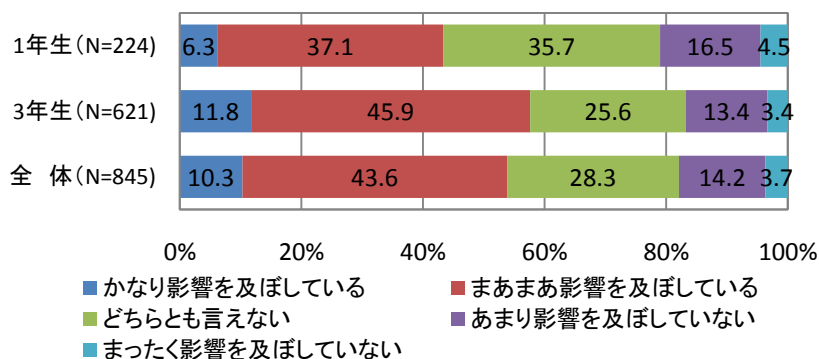


図17-2 セミナー・講座受講の影響度

Q18 就職相談

就職に関する相談では、1年生(16.2%)よりも3年生(29.8%)の方が多く相談したことがあると回答している。

相談経験者に相談相手を尋ねたところ、1年生、3年生ともに①先生(1年生53.1%、3年生56.4%)、②上級生(1年生48.8%、3年生47.2%)、③キャリアサポートセンター(1年生32.5%、3年生41.6%)の順となっていた。

就職相談を受けての今の自分への影響があったとする者は、1年生、3年生ともに60%強であった(1年生60.6%、3年生63.3% *「かなり」「まあまあ影響」の合算)。

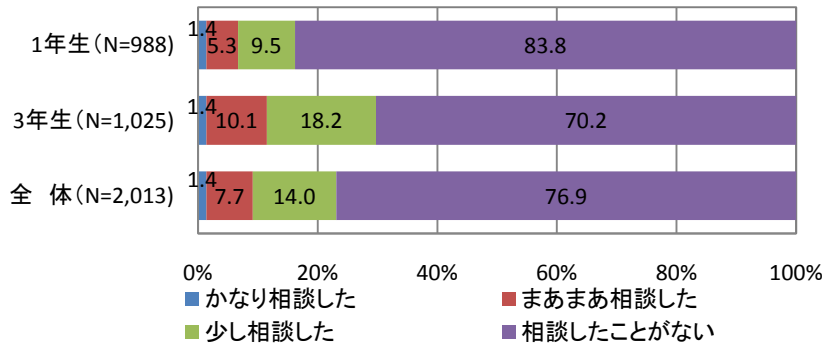


図18-1 就職相談をしたことがあるか

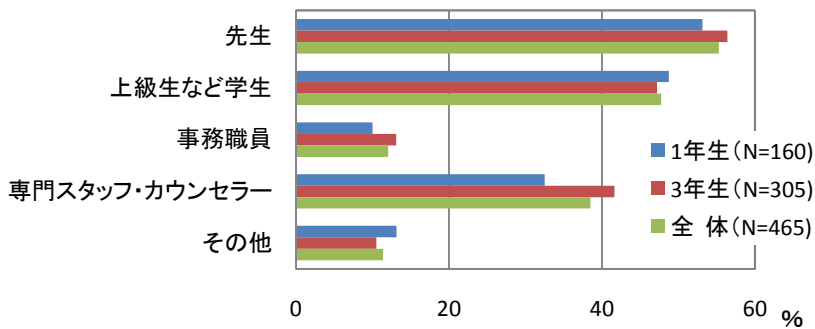


図18-2 就職相談の相手

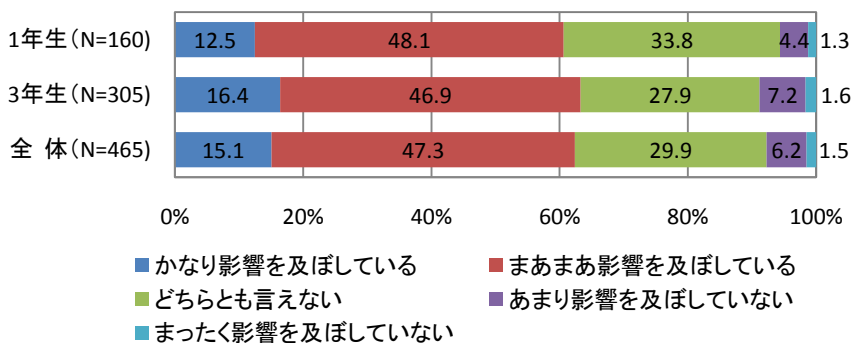


図18-3 就職相談の影響度

Q19 資格の必要度

資格の必要度を尋ねたところ、必要と回答した学生は、1年生、3年生ともに、8割も見られた(1年生81.5%、3年生77.5% *「とても」「まあまあ必要」の合算)。

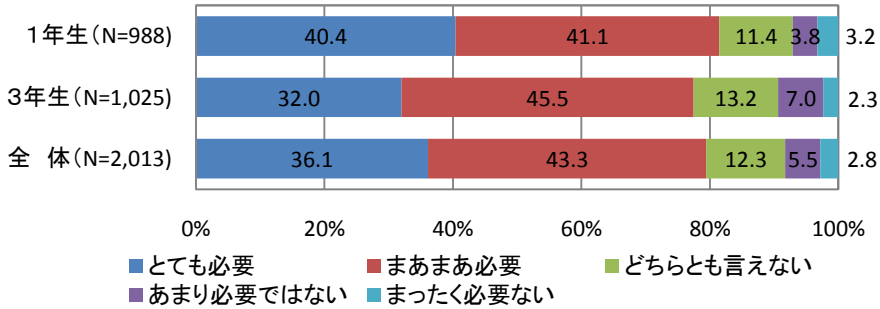


図19 資格の必要度

Q20 いつから将来の仕事や人生設計を考え始めたか

現在考える将来の仕事や人生設計をいつ頃から考え始めたかという問いに対しては、1年生で「高校1・2年生頃」(36.5%)、「大学受験期」(22.9%)の順で多く、3年生で「最近」(36.1%)、「高校1・2年生頃」(19.6%)の順で多く見られた。

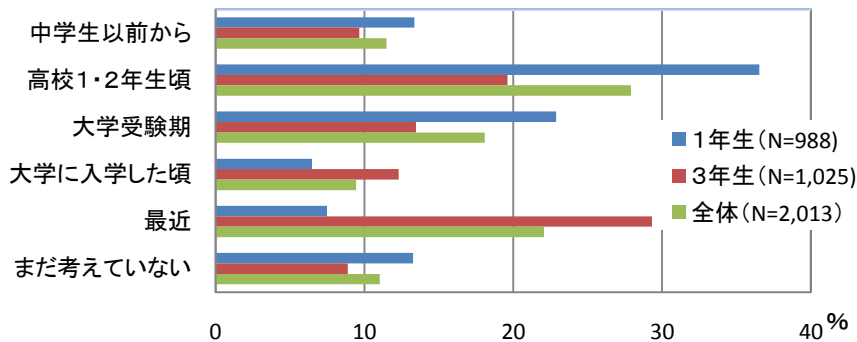


図20 将来の人生設計の開始時期

Q21 就職や将来のことばかり考えてしまうか

就職や将来のことばかり気になって今が充実していないことがあるかどうかを尋ねたところ、ある(*「非常に」、「まあまあある」の合算)と回答した学生は、1年生で30.0%、3年生で34.8%であった。

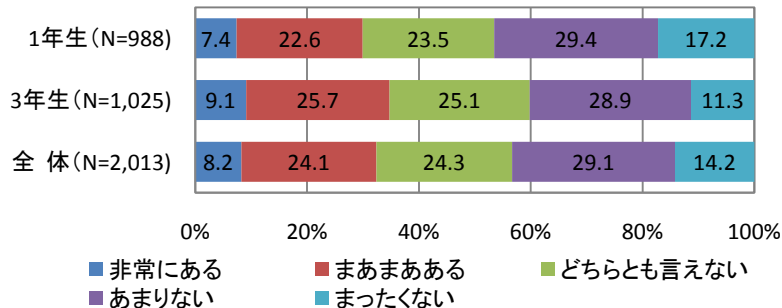


図21 就職や将来が気になり、今が充実していないか

Q22 就職や将来のことに関する両親の関与

1年生、3年生ともに4割前後の学生が、就職や将来のことに関する両親の関与を感じていた(1年生41.6%、3年生38.7% *「非常に」「まあまあ関与」の合算)。

両親が関与していない学生も含めて全員にその関与の肯定・否定を尋ねたところ、1年生、3年生ともに、6割以上の学生が両親の関与を肯定的にとらえていた(1年生63.8%、3年生63.6% *「かなり」「まあまあ良い」の合算)。

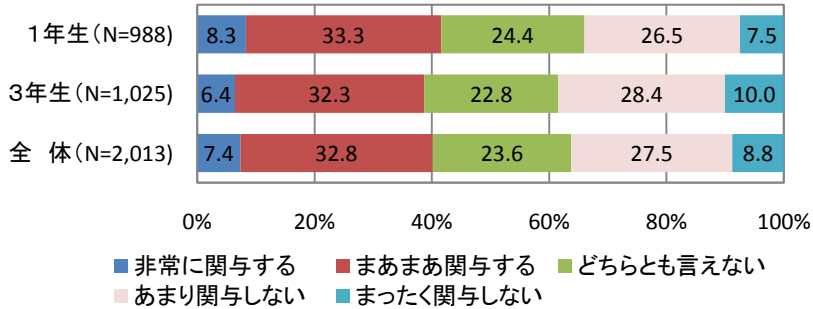


図22-1 就職や将来への両親関与度

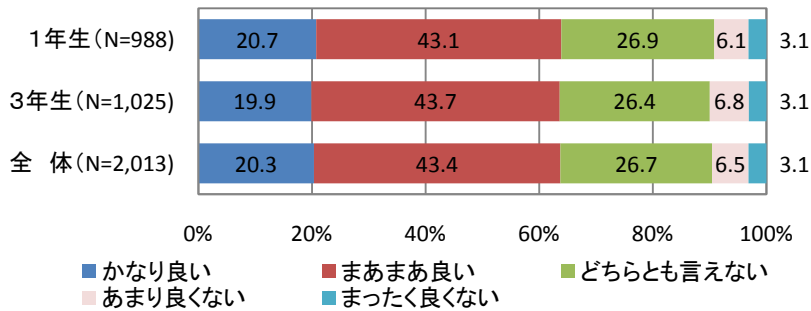


図22-2 両親の関与についての評価

Q23 大学や学部・学科・コースは将来に希望を与えてくれるか

現在所属する大学、学部・学科・コースが就職や未来に対して希望を与えてくれる(*「非常に」「まあまあ与えてくれる」の合算)かどうかを尋ねたところ、1年生(63.7%)の方が3年生(54.9%)よりも希望を感じると答えた。

また、希望を与えてくれない(*「あまり」「まったく与えてくれない」の合算)と回答した学生にその理由を1つ尋ねたところ、1年生でもっとも多かったのは、「大学で勉強していても自分が成長している気がしないから」(25.3%)、次いで「なぜだかわからないが希望を感じない」(21.4%)であった。3年生では、「所属する学部や学科・コースが希望する職種や人生設計につながらないから」(29.4%)がもっとも多く見られ、次いで「大学で勉強していても自分が成長している気がしないから」(27.5%)が多く見られた。

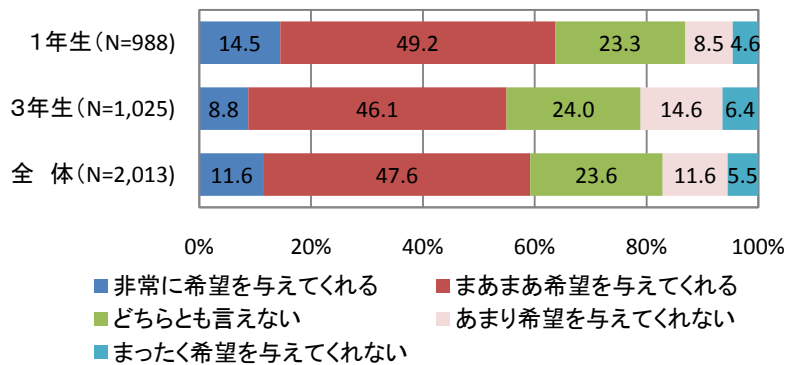


図23-1 大学・所属学部は将来に希望を与えるか

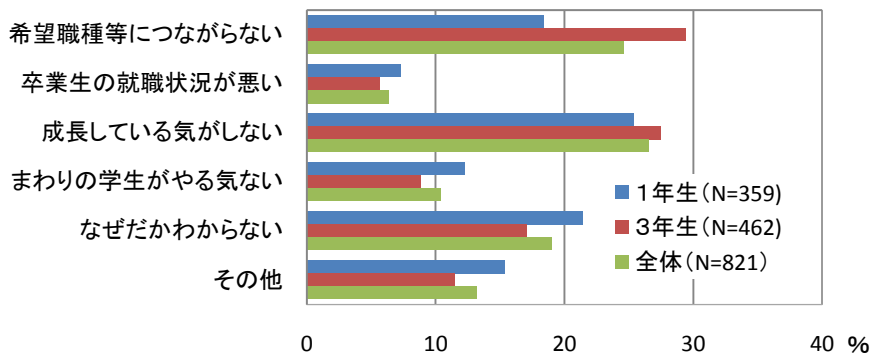


図23-2 希望を与えてくれない理由

(「どちらとも言えない」、「与えてくれない」と回答した者)

Q24 就職活動の開始時期

就職活動をいつ頃から始めようと考えているか(あるいは始めたか)を尋ねたところ、1年生でもっとも多く見られたのは「6年制なので、あるいは大学院へ進学しようと考えているので、学部段階で就職活動はしない」であった(27.5%)。次いで多く見られたのは、「3年生夏休み明け」(18.2%)、「3年生前期」(16.9%)であった。

3年生でもっとも多く見られたのは「3年生終わり頃」(31.0%)であり、次いで「3年生夏休み明け」(23.7%)、「6年制なので、あるいは大学院へ進学しようと考えているので、学部段階で就職活動はしない」(22.7%)であった。

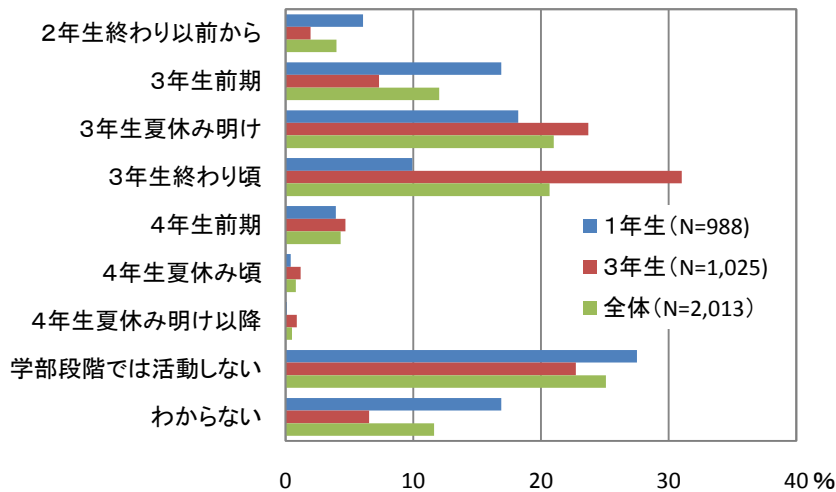


図24 就職活動の開始時期

Q25 転職の可能性

就職後5年以内の転職予想(*「かなり」「あるかもしれない」の合算)は、3年生(36.4%)が1年生(31.2%)よりも高い。しかし、転職しない(*「たぶん」「まったくない」の合算)もまた、3年生(44.5%)が1年生(40.5%)よりも高い。

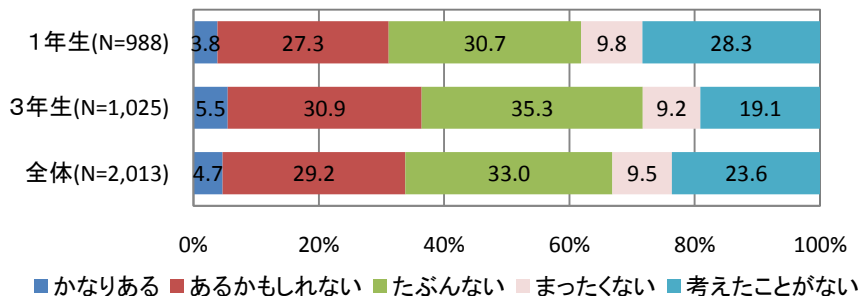


図25 転職の可能性

Q26 希望する雇用形態

就職時の雇用形態についての考え方を5つ提示して、もっとも近いものを1つだけ選ばせたところ、「正規雇用の従業員以外は考えられない」という学生が、1年生、3年生ともに6～7割を占めた(1年生55.7%、3年生67.6%)。

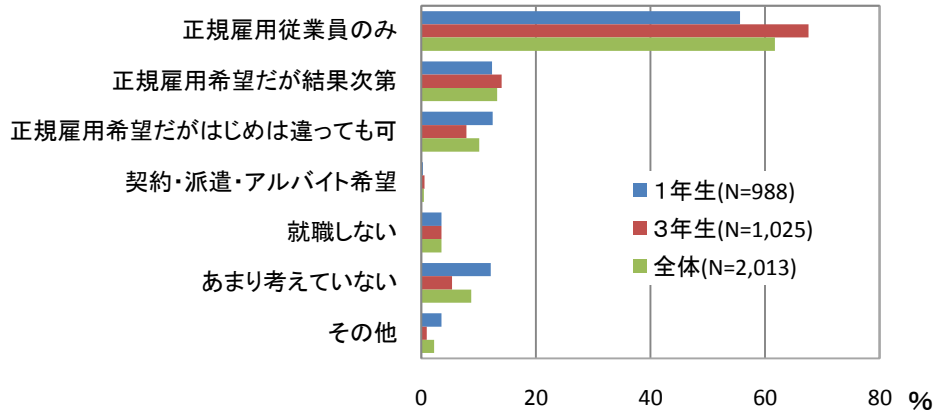


図26 希望する雇用形態

Q27 仕事をいつまで続けるか

仕事をいつまで続けるか、5つの選択肢から1つだけ選ばせたところ、1年生、3年生ともに、「定年を迎えるまでは仕事をやめないが、定年後は趣味や娯楽にふけてのんびり余生を過ごしたい」（1年生33.2%、3年生36.6%）がもっとも多かった。次いで多かったのは、「ある時期は結婚・子育てなどで中断するかもしれないが、基本的には一生涯働きたい」（1年生21.3%、3年生25.7%）、「定年を迎えても別の仕事を新たに探す」（1年生18.9%、3年生16.6%）であった。

※この項目は男女間で大きな差が見られたので、男女別に結果を示す。

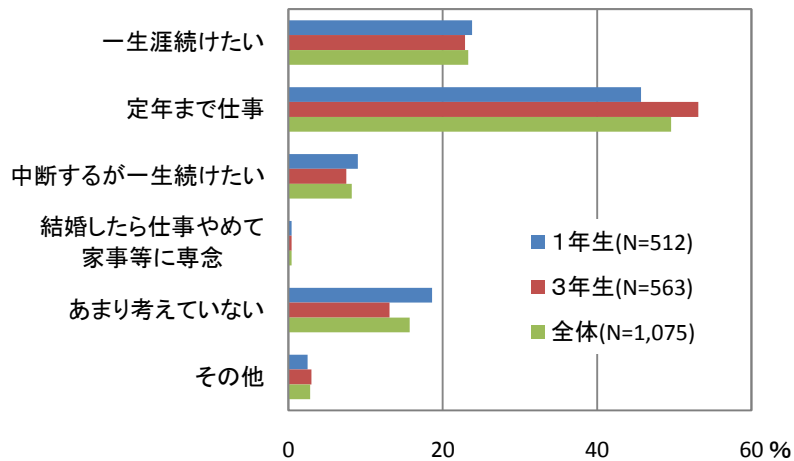


図27-1 仕事をいつまで続けるか(男性)

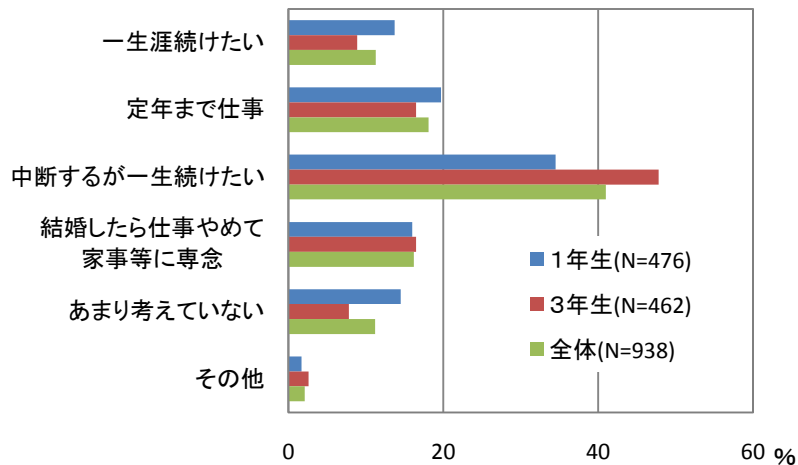


図27-2 仕事をいつまで続けるか(女性)

Q28 理想の仕事

[出典]日本放送文化研究所(編)(2004). 現代日本人の意識構造[第六版]. 日本放送出版協会.

1番理想的な仕事を選ばせたところ、1年生では「専門知識や特技が活かせる仕事」(25.4%)がもっとも多く見られ、次いで「仲間と楽しく働ける仕事」(19.0%)が多く見られた。3年生では、「仲間と楽しく働ける仕事」(22.9%)、「専門知識や特技が活かせる仕事」(20.8%)の順で多く見られた。興味深いのは、2番目に理想的な仕事として選ばれたのは、1年生、3年生ともに「高い収入が得られる仕事」(1年生25.8%、3年生21.2%)であった。

なお、「世の中のためになる」は1番理想的でも2番目でもなく、1年生、3年生ともに1割弱の学生からしか選ばれなかった(「1番理想的だと思う仕事」で1年生7.9%、3年生9.5%)。

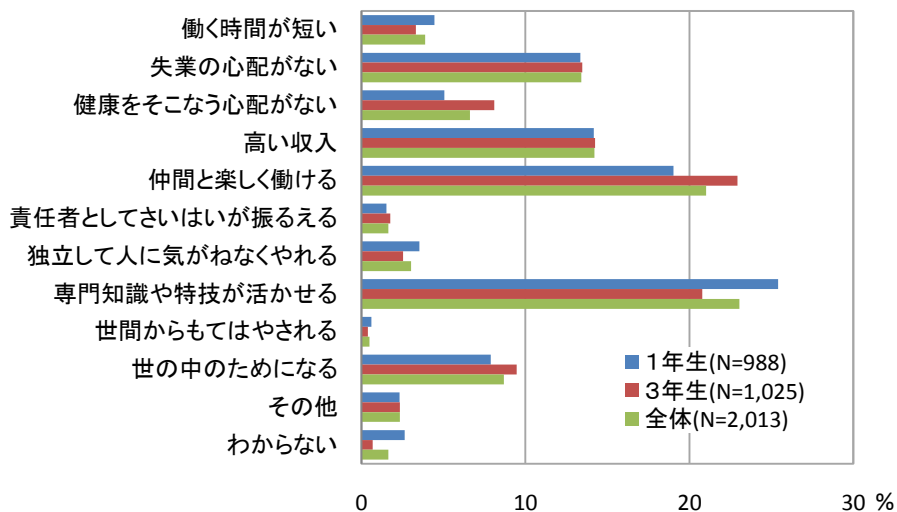


図28-1 理想の仕事 1番目

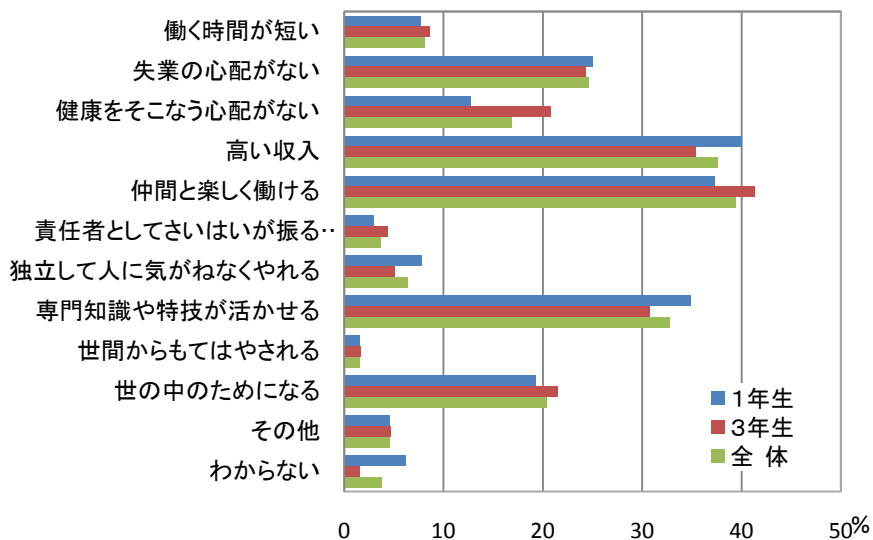


図28-2 理想の仕事 1番目+2番目

同じ内容について調査した日本放送研究所(2004)による調査結果(以下、「放送研究所調査」と表記)においては、1番目に理想とされる仕事としてあげられたものは、「仲間と楽しく働ける」(20%)および「専門知識や特技が生かせる」(20%)がもっとも多く、「失業の心配がない」(17%)、「健康をそこなう心配がない」(16%)が続いていた。「高い収入」(8%)は順位としては5番目に位置づいていたが、10%に満たないものであった。

2番目に理想的な仕事としてあげたポイントも合算してみた場合にもほぼ順位は変わらず、「仲間と楽しく働ける」(41%)がもっとも多く、次いで、「専門知識や特技が生かせる」(32%)、「健康をそこなう心配がない」(31%)、「失業の心配がない」(29%)、「高い収入」(22%)の順番になっていた。

これをふまえると、今回の調査で「高い収入」が、1番目に理想とする仕事としても(1年生14.2%、3年生14.2%)、1番目と2番目を合わせた場合(1年生40.0%、3年生35.4%)でもポイントが高かったことは、特徴的であった。その代わりに、「健康をそこなう心配がない」は、1番目に理想とする仕事のポイント(1年生12.8%、3年生20.8%)、1番目と2番目の理想を合わせたポイント(1年生12.8%、3年生35.4%)共に、放送研究所調査と比較して低い値であった。

Q29 仕事と余暇との関係

仕事と余暇のあり方について「もっとも望ましい」ものを1つだけ選ばせたところ、1年生、3年生ともに、「仕事にも余暇にも同じくらい力を入れる」を選んだ学生が約半数を占めた(1年生47.7%、3年生47.8%)。次いで多く見られたのは、1年生、3年生ともに、「仕事はさっさと片付けて、できるだけ余暇を楽しむ」(1年生21.6%、3年生22.8%)であった。

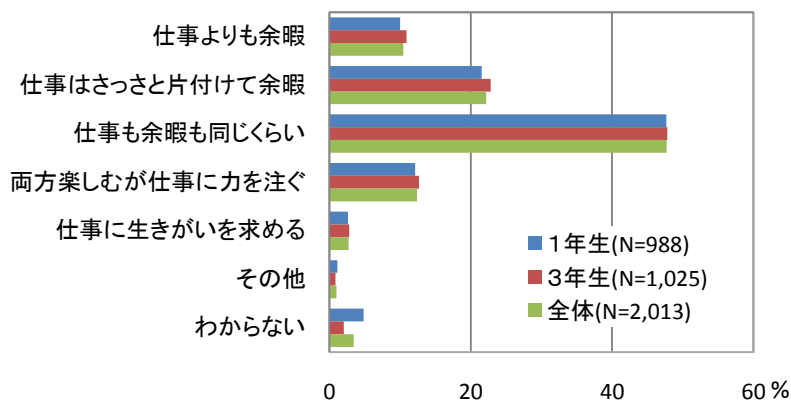


図29 仕事と余暇の関係

日本放送研究所(2004)による調査結果(以下、「放送研究所調査」と表記)と比較すると、「仕事よりも余暇」「できるだけ余暇を楽しむ」を合わせた「余暇志向」(1年生31.6%、3年生33.7%、放送研究所調査34%)の割合はほぼ同様であった。放送研究所調査よりも高かったのは「仕事と余暇も同じくらい」という「両立志向」(1年生47.7%、3年生47.8%、放送研究所調査38%)であり、低かったのは「余暇も時には楽しむが仕事」と「仕事に生き甲斐を求める」を合わせた「仕事志向」(1年生14.7%、3年生15.5%、放送研究所調査26%)であった。

Q30 自己効力

キャリア形成に関連した遂行能力を示す項目を30項目提示し、それぞれについて自信度を尋ねた。

大半の項目で1年生と3年生の違いは見られず、両者ともにもっとも平均点が高かった項目は、「両親や友達が勧める職業であっても、自分の適性や能力に合っていないと感じるものであれば断ること」(1年生2.95、3年生3.02)であった。次いで平均点が高かったのは、「自分の理想の仕事の思い浮かべること」(1年生2.87、3年生2.85)、「卒業後さらに大学、大学院、専門学校に行く必要があるのかどうかを決定すること」(1年生2.83、3年生2.95)、「いくつかの職業に興味を持っていること」(1年生2.75、3年生2.86)であった。

他方、「5年先の目標を設定し、それにしたがって計画を立てること」(1年生2.17、3年生2.23)、「就職時の面接でうまく対応すること」(1年生2.38、3年生2.32)の平均点は低かった。

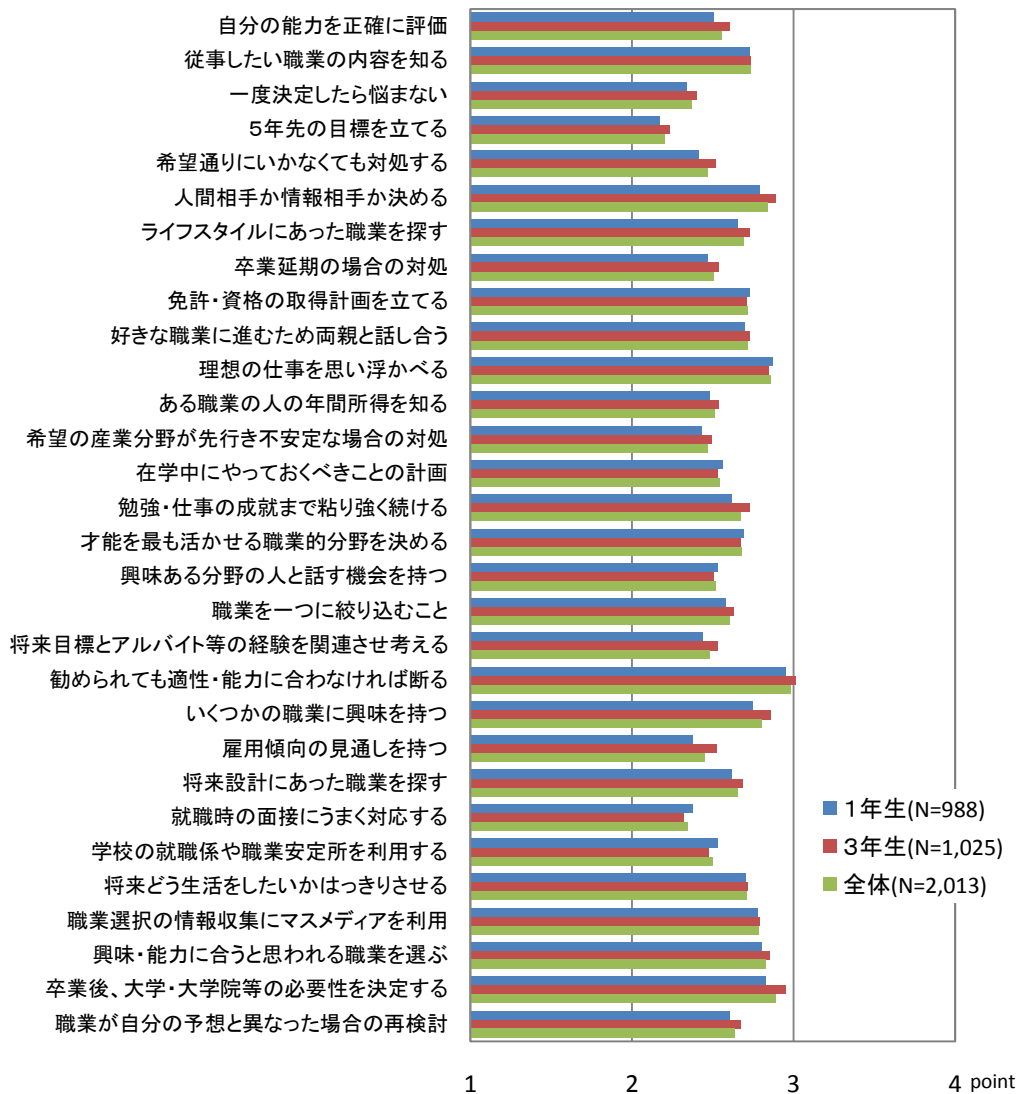


図30 自己効力

Q31 結婚やその後の家庭生活について

結婚やその後の家庭生活についてどの程度考えているかを尋ねたところ、1年生で54.4%の学生が、3年生で61.8%の学生が考えている（*「かなり」「まあまあ考えている」の合算）と回答した。わずかながら3年生の方が割合が高い傾向がうかがえる。

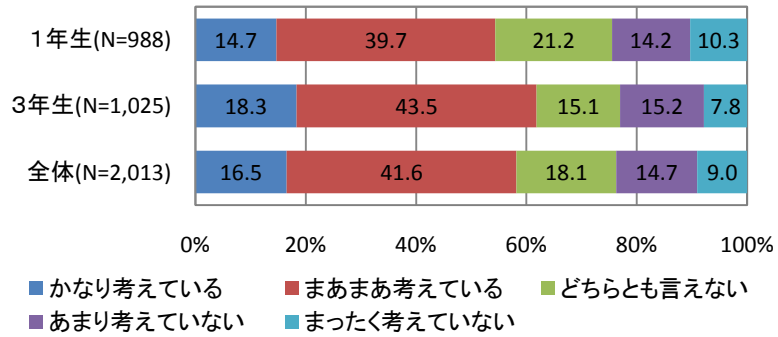


図31 結婚・家庭生活について考えているか

調査票

対象者プロフィール(奨学状況など)

SC1 あなたの大学はどれにあたりますか。

- (1) 短期大学 (2) 4年制大学 (3) 医系・薬科系6年制大学 (4) その他

SC2 あなたは大学何年生(何回生)ですか。

- (1) 1年生 (2) 2年生 (3) 3年生 (4) 4年生 (5) 5年生以上 (6) 大学院生 (7) 科目等履修生

F1 あなたの性別をお知らせください。

- (1) 男 (2) 女

F2 あなたの所属大学についてお知らせください。

大学名をお知らせください。学部名をお知らせください。学科名・コース名をお知らせください。

国立ですか、公立ですか、私立ですか。

- (1) 国立 (2) 公立 (3) 私立

F3 文系ですか、それとも理系ですか。

- (1) どちらかといえば文系 (2) どちらかといえば理系 (3) 文系でもあり理系でもある

F4 あなたが所属する学部・学科・コースで学ぶ内容は、多くの所属学生がつくであろう職業にどの程度関連するものですか。

あてはまるものを1つお知らせください。(たとえば、医学部なら医者などは関連が大きいと考えられます。)

- (1) かなり関連している (2) どちらかといえば関連している (3) どちらとも言えない (4) どちらかといえば関連していない (5) まったく関連していない

F5 あなたの大学の所在地(都道府県)をお知らせください。

F6 現在あなたがお住まいの都道府県をお知らせください。

F7 あなたは自宅からの通学ですか、それとも下宿・寮など親元を離れた住まいからの通学ですか。

- (1) 自宅 (2) 下宿・寮など

F8 通学時間はどのくらいかかりますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 15分以内 (2) 30分以内 (3) 45分以内 (4) 60分以内 (5) 1時間15分以内 (6) 1時間30分以内 (7) 2時間以内 (8) それ以上

F9 あなたは奨学金をもらっていますか。

- (1) もらっている (2) もらっていない

大学進学理由と現在の重視点

Q1 あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか。入学前にあなたが最も重視した理由を1つお知らせください。

また、現在あなたが最も重視しているものも1つお知らせください。

- (1) 教養や視野の拡大 (2) 立派な人格形成 (3) 専門知識、技術の修得 (4) 学問研究 (5) 就職に必要な勉強をする (6) 将来の安定した生活 (7) 結婚に有利 (8) 青春を楽しむ (9) 課外活動にはげむ (10) 皆が行くから (11) 家族がすすめる (12) 先生がすすめる (13) その他 (14) 特に理由はない

大学での学習理由

Q2 あなたが大学で学ぶ理由は何でしょうか。25 項目についてそれぞれどの程度あてはまるかを 1 つずつお知らせください。

(それぞれ 1 つずつ)

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| (1) いろいろな人と出会えるから | (14) 新聞、雑誌から、興味がわいたから |
| (2) 多くの人と交わることができるから | (15) 自分の経験と知識が融合すると興味がわくから |
| (3) 新たな友人を作ることができるから | (16) なりたい職業や、資格のため |
| (4) 楽しそうな場だから | (17) 高い専門性を身につけたいから |
| (5) 人間関係が豊かになるから | (18) 現在関わっている活動や仕事上、勉強することが必要であるから |
| (6) 視野を広げたいから | (19) 自分自身が関わった活動や仕事に関する事柄を学びたいから |
| (7) 自分を高めたいから | (20) 経験を裏付ける専門的知識がないから |
| (8) 幅広い教養を身につけたいから | (21) なんとなく勉強しているだけだ |
| (9) 自分の幅を広げたいから | (22) 義務的に勉強している |
| (10) 物事を多様にみることができるから | (23) ほかにやりたいことがなかったから |
| (11) 日常的に接したことに関心をもったから | (24) 特に学びたいものがあるから |
| (12) ふだん、疑問に感じたことを勉強したいから | (25) 興味ある分野を学びたいから |
| (13) 日常生活でみたり、聞いたりしたことについて学びたいから | |

・選択肢

あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない あてはまらない

学習意欲

Q3 以下の文章を読んでそれぞれどの程度あてはまるかを 1 つずつお知らせください。(それぞれ 1 つずつ)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| (1) 自分では、学習意欲は高い方だと思う | (4) できるだけ長く勉強を続けたい |
| (2) 自分では、積極的に学習していると思う | (5) 常に学びたい気持ちがある |
| (3) 勉強は好きである | |

・選択肢

あてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない あてはまらない

能力向上とマインド形成(授業・授業以外)

Q4 あなたの大学生活において下記の 25 項目の能力や事柄がどの程度身につきましたか。

大学での授業(予習復習など授業外での学習を含む) 授業以外の活動(クラブ・サークル、アルバイト、自主勉強、読書など)

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| (1) 専門分野で研究するための基礎的な学力と技術 | (14) プレゼンテーション能力 |
| (2) 将来の職業に専門的知識を生かす応用力 | (15) 数理的な能力 |
| (3) 専門外にわたる幅広い教養 | (16) コンピュータ・インターネットの操作能力 |
| (4) 分析を通しての批判的思考力 | (17) 時間を有効に利用する能力 |
| (5) 情報の管理能力と技術 | (18) 学習に対するやる気 |
| (6) 市民性と倫理的責任感 | (19) 他人との協調性 |
| (7) 起業家精神 | (20) 創造性 |
| (8) 対話の能力 | (21) チャレンジ精神 |
| (9) 日本語での口頭と筆記によるコミュニケーション能力 | (22) 知的面での自信 |
| (10) 外国語での口頭と筆記によるコミュニケーション能力 | (23) 自己理解 |
| (11) 問題解決能力 | (24) 競争心 |
| (12) リーダーシップ能力 | (25) 忍耐強く継続して物事に取り組む力 |
| (13) 文章表現能力 | |

・選択肢

かなり身についた まあまあ身についた あまり身につかなかった まったく身につかなかった

Q5 過去一年間に、あなたは次の活動にどれくらいの時間を費やしましたか。1 週間の平均的な時間数として最も近いものを 1 つずつお知らせください。(それぞれ 1 つずつ)

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 大学で授業や実験に参加する | (9) インターネットサーフィンをする |
| (2) 授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をする | (10) ゲーム(ゲーム機・PC ゲーム・オンラインゲーム)をする |
| (3) 授業とは関係のない勉強を自主的にする | (11) 勉強のための本(新書や専門書など)を読む |
| (4) 同性の友達と交際する | (12) 娯楽のための本(小説・一般書など、マンガ・雑誌を除く)を読む |
| (5) 異性の友達と交際する | (13) マンガや雑誌を読む |
| (6) 家庭教師や塾の講師のアルバイトをする | (14) 新聞を読む |
| (7) 家庭教師や塾の講師以外のアルバイトをする | (15) 通学にかかる時間 |
| (8) テレビをみている | |

・選択肢

全然ない 1 時間未満 1~2 時間 3~5 時間 6~10 時間 11~15 時間 16~20 時間 21 時間以上

Q6 過去一年間を振り返って、次の活動はあなたの将来の仕事や人生設計にどれくらい貢献したと思いますか。それぞれについてあてはまるものを 1 つずつお知らせください。(それぞれ 1 つずつ)

- (1) 大学で授業や実験に参加する
- (2) 授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をする
- (3) 授業とは関係のない勉強を自主的にする
- (4) 同性の友達と交際する
- (5) 異性の友達と交際する
- (6) クラブ・サークル活動をする
- (7) コンパや懇親会などに参加する
- (8) 家庭教師や塾の講師のアルバイトをする
- (9) 家庭教師や塾の講師以外のアルバイトをする
- (10) テレビをみている
- (11) インターネットサーフィンをする
- (12) ゲーム(ゲーム機・コンピュータゲーム・オンラインゲーム)をする
- (13) 勉強のための本(新書や専門書など)を読む
- (14) 娯楽のための本(小説や一般書など、マンガや雑誌を除く)を読む
- (15) マンガや雑誌を読む
- (16) 新聞を読む
- (17) 通学にかかる時間

・選択肢

非常に貢献した まあまあ貢献した どちらとも言えない あまり貢献しなかった まったく貢献しなかった

大学生活の重点と充実度

Q7 あなたの大学生活は、以下の 8 つのうち、どれに近いですか。最もあてはまるものを 1 つお知らせください。

- | | | |
|-----------|--------------|--------------|
| (1) 勉強第一 | (4) 豊かな人間関係 | (7) 何事もほどほどに |
| (2) クラブ第一 | (5) 資格取得第一 | (8) 何となく |
| (3) 趣味第一 | (6) アルバイト・貯金 | (9) その他 |

Q8 あなたの学生生活は充実していますか。あてはまるものを 1 つお知らせください。

- (1) 充実している (2) まあまあ充実している (3) どちらとも言えない (4) あまり充実していない (5) 充実していない

ボランティア

Q9-1 あなたは、今までにボランティア活動にどの程度参加しましたか。(それぞれ1つずつ)

- (1) 大学入学前 (2) 大学入学後

・選択肢

かなり参加した まあまあ参加した 少し参加した
参加したことはない

Q9-2 ボランティア活動への参加は今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

(それぞれ1つずつ)

- (1) 大学入学前 (2) 大学入学後

・選択肢

かなり影響を及ぼしている まあまあ影響を及ぼしている どちらとも言えない あまり影響を及ぼしていない
まったく影響を及ぼしていない

インターンシップ

Q10-1 あなたは、今までに企業・学校・官公庁等へのインターンシップ(職務体験、就労実習などを含む)にどの程度参加しましたか。(それぞれ1つずつ)

- (1) 大学入学前 (2) 大学入学後

・選択肢

かなり参加した まあまあ参加した 少し参加した 参加したことはない

Q10-2 インターンシップへの参加は今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

(それぞれ1つずつ)

- (1) 大学入学前 (2) 大学入学後

・選択肢

かなり影響を及ぼしている まあまあ影響を及ぼしている どちらとも言えない あまり影響を及ぼしていない
まったく影響を及ぼしていない

進路指導

Q11-1 あなたは、中学・高校での進路指導などで、就職や将来の生き方についてどの程度考える機会を与えられてきましたか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり与えられた (2) まあまあ与えられた (3) 少し与えられた (4) まったく与えられなかった

Q11-2 そのことは今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり影響を及ぼしている (4) あまり影響を及ぼしていない
(2) まあまあ影響を及ぼしている (5) まったく影響を及ぼしていない
(3) どちらとも言えない

参加型授業・演習

Q15-1 あなたは大学に入ってから、ある問題を考えたり、発表したり、ディスカッションをしたりする参加型の授業や演習にどの程度参加してきましたか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) よく参加してきた (2) まあまあ参加してきた (3) 少し参加してきた (4) まったく参加してこなかった

Q15-2 参加型授業や演習への参加は今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり影響を及ぼしている (4) あまり影響を及ぼしていない
(2) まあまあ影響を及ぼしている (5) まったく影響を及ぼしていない
(3) どちらとも言えない

キャリア形成科目

Q16-1 あなたは大学に入って、単位の出るキャリア形成科目(就職対策や人生設計などに関する授業科目)をどの程度受講しましたか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり受講した (2) まあまあ受講した (3) 少し受講した (4) 受講したことがない

Q16-2 キャリア形成科目の受講は今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり影響を及ぼしている (4) あまり影響を及ぼしていない
(2) まあまあ影響を及ぼしている (5) まったく影響を及ぼしていない
(3) どちらとも言えない

キャリア形成支援

Q17-1 あなたは大学に入って、キャリアサポートセンター(*)などが主催する、単位とは無関係のキャリア形成支援(就職対策や人生設計など)のためのセミナーや講座(就職ガイダンスや就職セミナーも含む)をどの程度受講しましたか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり受講した (2) まあまあ受講した (3) 少し受講した (4) 受講したことがない

Q17-2 そのことは今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり影響を及ぼしている (4) あまり影響を及ぼしていない
(2) まあまあ影響を及ぼしている (5) まったく影響を及ぼしていない
(3) どちらとも言えない

就職相談

Q18-1 あなたは大学で、就職に関する相談(人生設計に関する相談も含む)を、個別にしたことがありますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり相談した (2) まあまあ相談した (3) 少し相談した (4) 相談したことがない

Q18-2 就職に関する相談をどのような方にしましたか。あてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)

- (1) 先生 (2) 上級生など学生(大学院生も含む) (3) 事務職員
(4) キャリアサポートセンター(*)にいる専門スタッフ・カウンセラーなど (5) その他

Q18-3 就職相談をしたことは今のあなたにどの程度影響を及ぼしていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり影響を及ぼしている (2) まあまあ影響を及ぼしている (3) どちらとも言えない
(4) あまり影響を及ぼしていない (5) まったく影響を及ぼしていない

資格

Q19_1 あなたは就職に備えて、大学で専門の勉強をする以外に、何か資格をもっておくことが必要だと考えていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) とても必要だと思う (4) あまり必要だとは思わない
(2) まあまあ必要だと思う (5) まったく必要ない
(3) どちらとも言えない

将来設計

Q12-1 あなたは、自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っていますか。

- (1) 持っている (2) 持っていない

Q12-2 その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、今自分が何をすべきなのかは分かっていますか。またそれを実行していますか。最もあてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 何をすべきか分かっているし、実行もしている (2) 何をすべきかは分かっているが、実行はできていない
(3) 何をすべきかはまだ分からない

Q12-3 あなたは「自分の将来の見通し」を積極的に求めていますか。

- (1) 求めている (2) 求めている

Q13 将来設計に関する5項目について、それぞれあてはまるものを1つずつお知らせください。(それぞれ1つずつ)

- (1) 私には、だいたいの将来設計がある (3) 私の将来は漠然としていてつかみどころがない
(2) 将来のために考えて今から準備していることがある (4) 将来のことはあまり考えたくない
(5) 私の将来には、希望がもてる

・選択肢

あてはまる どちらかといえばあてはまる どちらともいえない どちらかといえばあてはまらない あてはまらない

Q14 あなたは将来どこまでの進学を考えていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 大学を卒業する
(2) 大学卒業後専門学校等に進む
(3) 大学院(専門職大学院を含む)の修士課程を修了する
(4) 大学院(専門職大学院を含む)の博士課程を修了する

人生設計

Q20 あなたは、現在考える将来の仕事や人生設計を、いつ頃から考え始めましたか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 中学生以前から (4) 大学に入学した頃
(2) 高校1・2年生頃 (5) 最近
(3) 大学受験期(浪人を含む) (6) 将来の仕事や人生設計はまだ考えていない

Q21 あなたにとって、就職や将来のことばかりが気になって今を生きていない、今が充実していないということがありますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 非常にある (2) まあまあある (3) どちらとも言えない (4) あまりない (5) まったくない

Q22-1 あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに関して、どれくらい関与しますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 非常に関与する (4) あまり関与しない
(2) まあまあ関与する (5) まったく関与しない
(3) どちらとも言えない

Q22-2 あなたにとってこの両親の関わり方はどの程度良いものですか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり良い (2) まあまあ良い (3) どちらとも言えない (4) あまり良くない (5) まったく良くない

Q23-1 現在所属する大学や学部、学科・コースは、あなたの就職や未来に対して希望を与えてくれますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 非常に希望を与えてくれる (4) あまり希望を与えてくれない
(2) まあまあ希望を与えてくれる (5) まったく希望を与えてくれない
(3) どちらとも言えない

Q23-2 希望を与えてくれないのはなぜですか。最もあてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 所属する学部や学科・コースが希望する職種や人生設計につながらないから
(2) 卒業生の就職状況が悪いから
(3) 大学で勉強していても自分が成長している気がしないから
(4) まわりの学生がやる気ないから
(5) なぜだかわからないが希望を感じない
(6) その他

就職と仕事意識

Q24 あなたは就職活動をいつ頃から始めようと考えていますか(あるいはいつ頃から始めましたか)。あてはまるものを1つお知らせください。なお、医歯薬系学部など6年制の方、大学院に進学しようと考えている方は「6年制なので、あるいは大学院へ進学しようと考えているので、学部段階で就職活動はしない」を選んでください。

(

- | | | |
|--|-------------|----------------|
| 1) 2年生終わり以前から | (5) 3年生終わり頃 | (8) 4年生夏休み明け以降 |
| (2) 3年生前期 | (6) 4年生前期 | |
| (4) 3年生夏休み明け | (7) 4年生夏休み頃 | |
| (9) 6年制なので、あるいは大学院へ進学しようと考えているので、学部段階で就職活動はしない | | |
| (10) わからない | | |

Q25 あなたは将来就職して5年以内に、どの程度転職があるだろうと予想していますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------------------|
| (1) かなりあるだろうと思う | (3) たぶんないだろうと思う | (5) そんなことは考えたことがない |
| (2) あるかもしれないと思う | (4) まったくないと思う | |

Q26 就職時の雇用形態に関する次の文章を読んで、あなたの考えにもっとも近いものを1つお知らせください

- (1) 正規雇用の従業員(正社員、正規職員、公務員、教員など)以外はまったく考えられない
- (2) 正規雇用の従業員を希望するが、就職活動の結果次第では、契約・派遣社員やアルバイト、フリーターなどになるかもしれない
- (3) 正規雇用の従業員を希望するが、専門知識を活かした仕事に就きたいので、はじめは正規雇用の従業員でなくてもかまわない
- (4) 契約・派遣社員やアルバイト、フリーターがいい
- (5) 音楽や芸術、文学など個人の創作的な仕事を考えているので、会社などに就職する考えはない
- (6) あまり考えていない
- (7) その他

Q27 あなたが就職した場合、仕事をいつまで続けようと考えていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) 働けなくなるまで仕事は一生涯続けたい。定年を迎えても、別の仕事を新たに探す
- (2) 定年を迎えるまでは仕事はやめないが、定年後は趣味や娯楽にふけてのんびり余生を過ごしたい
- (3) ある時期は結婚・子育てなどで仕事を中断することがあるかもしれないが、基本的には一生涯働き続けたい
- (4) 結婚するまでは働くが、基本的に、結婚したら仕事をやめて家事・子育てに専念したい
- (5) あまり考えていない
- (6) その他

Q28 仕事にもいろいろありますが、あなたはどんな仕事が理想的だと思いますか。1番理想的だと思う仕事と、2番目に思う仕事を1つずつお知らせください。(それぞれ1つずつ)

1 番理想的だと思う仕事

2 番目に理想的だと思う仕事

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (1) 働く時間が短い仕事 | (7) 独立して、人に気がねなくやれる仕事 |
| (2) 失業の心配がない仕事 | (8) 専門知識や特技が活かせる仕事 |
| (3) 健康をそこなう心配がない仕事 | (9) 世間からもてはやされる仕事 |
| (4) 高い収入が得られる仕事 | (10) 世の中のためになる仕事 |
| (5) 仲間と楽しく働ける仕事 | (11) その他 |
| (6) 責任者として、さいはいが振るえる仕事 | (12) わからない |

Q29 仕事と余暇のあり方について、あなたはどれが最も望ましいと思いますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| (1) 仕事よりも、余暇の中に生きがいを求める | (4) 余暇も時には楽しむが、仕事のほうに力を注ぐ |
| (2) 仕事はさっさとかたづけ、できるだけ余暇を楽しむ | (5) 余暇も時には楽しむが、仕事のほうに力を注ぐ |
| (3) 仕事にも余暇にも、同じくらい力を入れる | (6) その他 |
| | (7) わからない |

各種自信度自己効力

Q30 下記に 30 の事柄をあげてあります。あなたはそれぞれの事柄を行うことに対して、どの程度の自信がありますか。あてはまるものを1つずつお知らせください。(それぞれ1つずつ)

- (1) 自分の能力を正確に評価すること
- (2) 自分が従事したい職業(職種)の仕事内容を知ること
- (3) 一度進路を決定したならば、「正しかったのだろうか」と悩まないこと
- (4) 5年先の目標を設定し、それにしたがって計画を立てること
- (5) もし望んでいた職業に就けなかった場合、それにうまく対処すること
- (6) 人間相手の仕事か、情報相手の仕事か、どちらが自分に適しているか決めること
- (7) 自分の望むライフスタイルにあった職業を探すこと
- (8) 何かの理由で卒業を延期しなければならなくなった場合、それに対処すること
- (9) 将来の仕事において役に立つと思われる免許・資格取得の計画を立てること
- (10) 本当に好きな職業に進むために、両親と話し合いをすること
- (11) 自分の理想の仕事を思い浮かべること
- (12) ある職業についている人々の年間所得について知ること
- (13) 就職したい産業分野が、先行き不安定であるとわかった場合、それに対処すること
- (14) 将来のために、在学中にやっておくべきことの計画を立てること
- (15) 欲求不満を感じても、自分の勉強または仕事の成就まで粘り強く続けること
- (16) 自分の才能を、最も活かせると思う職業的分野を決めること
- (17) 自分の興味を持っている分野で働いている人と話す機会を持つこと
- (18) 現在考えているいくつかの職業のなかから、一つの職業に絞り込むこと
- (19) 自分の将来の目標と、アルバイトなどでの経験を関連させて考えること
- (20) 両親や友達が勧める職業であっても、自分の適性や能力にあっていないと感じるものであれば断ること
- (21) いくつかの職業に、興味を持っていること
- (22) 今年の雇用傾向について、ある程度の見通しを持つこと
- (23) 自分の将来設計にあった職業を探すこと
- (24) 就職時の面接でうまく対応すること
- (25) 学校の就職係や職業安定所を探し、利用すること
- (26) 将来どのような生活をしたいか、はっきりさせること
- (27) 自分の職業選択に必要な情報を得るために、新聞・テレビなどのマスメディアを利用すること
- (28) 自分の興味・能力に合うと思われる職業を選ぶこと
- (29) 卒業後さらに、大学、大学院や専門学校に行くことが必要なのかどうか決定すること
- (30) 望んでいた職業が、自分の考えていたものと異なっていた場合、もう一度検討し直すこと

・選択肢

非常に自信がある 少しは自信がある あまり自信がない まったく自信がない

家庭についての考え方

Q31 あなたは結婚(する・しない)やその後の生活(子供をつくる・つくらない／妻は働きに出てほしくない／夕食時は絶対家族そろって過したい／単身赴任などで夫婦が別居になるのはいやだ、など)についてどのくらい考えていますか。あてはまるものを1つお知らせください。

- (1) かなり考えている
- (2) まあまあ考えている
- (3) どちらとも言えない
- (4) あまり考えていない